

遠州灘沿岸 海岸保全基本計画



平成15年7月

静岡県
愛知県

遠州灘沿岸海岸保全基本計画 変更 (案)

平成26年 一部変更
(平成15年7月)

静岡県
愛知県

目次

第1章 海岸の保全に関する基本的な事項 1

1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項 1

1-1 遠州灘沿岸の現状 1

(1) 自然的特性 1

① 海岸地形 1

② 海岸景観 3

③ 海岸の植物 5

④ 海岸の動物 7

⑤ 海域の生物 9

⑥ 自然環境に関わる法指定状況 11

(2) 社会的特性 15

① 沿岸の歴史と文化 15

② 人口 19

③ 漁港・港湾 21

④ 交通 23

⑤ 土地利用 25

⑥ 観光・レクリエーション 27

⑦ 砂浜への車両の乗り入れ 29

⑧ 海岸における学習活動 30

⑨ 海岸における環境保全面での取り組み 31

(3) 海岸保全の現状 33

① 高潮 33

② 津波 34

③ 侵食 35

④ 漂砂特性 39

⑤ 砂浜などの防災機能 39

⑥ 海岸保全施設の整備状況 41

(4) 地域の要請 43

(5) 関連計画等 47

1-2 沿岸の長期的なあり方 49

(1) 現況特性と基本方向 50

(2) 沿岸における課題 51

(3) 基本方針 53

目次

第1章 海岸の保全に関する基本的な事項 1

1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項 1

1-1 遠州灘沿岸の現状 1

(1) 自然的特性 1

① 海岸地形 1

② 海岸景観 3

③ 海岸の植物 5

④ 海岸の動物 7

⑤ 海域の生物 9

⑥ 自然環境に関わる法指定状況 11

(2) 社会的特性 15

① 沿岸の歴史と文化 15

② 人口 19

③ 漁港・港湾 21

④ 交通 23

⑤ 土地利用 25

⑥ 観光・レクリエーション 27

⑦ 砂浜への車両の乗り入れ 29

⑧ 海岸における学習活動 30

⑨ 海岸における環境保全面での取り組み 31

(3) 海岸保全の現状 33

① 高潮 33

② 津波 34

③ 侵食 35

④ 漂砂特性 39

⑤ 砂浜などの防災機能 39

⑥ 海岸保全施設の整備状況 41

(4) 地域の要請 43

(5) 関連計画等 47

1-2 沿岸の長期的なあり方 49

(1) 現況特性と基本方向 50

(2) 沿岸における課題 51

(3) 基本方針 53

2. 海岸の防護に関する事項…………… 55

2-1. 海岸の防護の目標…………… 55

 (1) 防護すべき地域…………… 55

 (2) 防護水準…………… 55

2-2. 海岸の防護の目標を達成するための施策…………… 55

3. 海岸環境の整備及び保全に関する事項…………… 57

3-1. 海岸環境の整備及び保全のための施策…………… 57

4. 海岸における公衆の適正な利用に関する事項…………… 58

4-1. 公衆の適正な利用を促進するための施策…………… 58

5. 整備の方向…………… 61

5-1. 砂浜の保全方策…………… 61

5-2. エリア区分と整備の方向…………… 65

第2章 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項…………… 71

1. 海岸保全施設を整備しようとする区域…………… 71

2. 海岸保全施設の種類、規模及び配置等…………… 71

3. 海岸保全施設による受益の地域及びその状況…………… 71

第3章 今後の取組方針…………… 77

2. 海岸の防護に関する事項…………… 55

2-1. 海岸の防護の目標…………… 55

 (1) 防護すべき地域…………… 55

 (2) 防護水準…………… 55

2-2. 海岸の防護の目標を達成するための施策…………… 55

3. 海岸環境の整備及び保全に関する事項…………… 57

3-1. 海岸環境の整備及び保全のための施策…………… 57

4. 海岸における公衆の適正な利用に関する事項…………… 58

4-1. 公衆の適正な利用を促進するための施策…………… 58

5. 整備の方向…………… 61

5-1. 砂浜の保全方策…………… 61

5-2. エリア区分と整備の方向…………… 65

第2章 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項【別冊】…………… 71

【愛知県】

1. 海岸保全施設の新設及び改良に関する事項…………… 71

 (1) 海岸保全施設を整備しようとする区域…………… 71

 (2) 海岸保全施設の種類、規模及び配置等…………… 71

 (3) 海岸保全施設による受益の地域及びその状況…………… 71

2. 海岸保全施設の維持又は修繕に関する事項…………… 72

3. 今後の取組方針…………… 77

はじめに

遠州灘沿岸は、静岡県の御前崎から愛知県の伊良湖岬に至る約 117km の海岸であり、天竜川河口を頂点として東西に緩やかに弧を描く、わが国有数の長大な砂浜海岸である。その砂浜は、天竜川や渥美半島の海食崖からの土砂により形成されている。静岡県側は、白い砂浜と砂丘を広く覆うクロマツ林による白砂青松と、東端の御前崎の波に洗われる岩礁地形が対照的美しいパノラマを展開している。一方愛知県側は、海食崖と砂浜が連綿と続く片浜十三里、伊良湖岬や日出の石門などの荒々しい岩礁地形と押し寄せる太平洋の荒波とが織りなす雄大な景観が特徴的である。

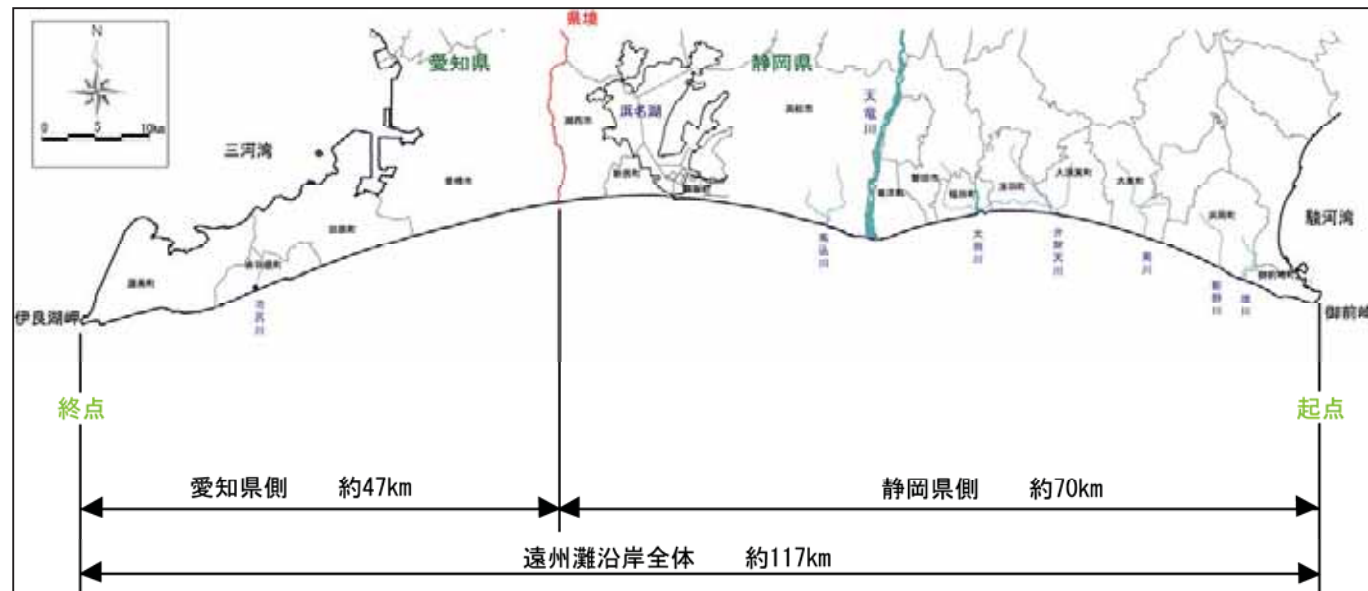
遠州灘沿岸域は、ほぼ全域が国定公園や県立自然公園に指定されており、特徴ある自然地形と太田川河口部や渥美町堀切のハマボウ群落などの希少な自然が残されている。さらに、ほぼ全域の砂浜が全国でも有数なアカウミガメの繁殖の場になっており、その保護活動も各地域で活発に行われるようになってきた。

遠州灘は波が荒く、流れが速いため海水浴場としての利用はされていないが、釣りや自然にふれあう安らぎの場として地域の人々に親しまれてきた。特に近年は、サーフィンやウインドサーフィンなどの海洋性レクリエーションの場として、遠く関東圏や関西圏からも多く人々が訪れている。

沿岸背後の地域は、温暖な気候に恵まれていることからメロンや電照菊などの施設園芸をはじめとする全国有数の農業生産地である。また、シラス漁をはじめとして、沿岸に豊かな漁場を有していることから漁業も盛んである。かつて浜松藩が奨励した砂地での綿花栽培を起源とする織物機械産業の発達、現在の自動車などの輸送機械をはじめとした日本の先端機械産業の一大工業地帯の形成につながっている。しかし、このような近年の繁栄の一方で、1498年の明応地震をはじめとした記録に残る4度の大地震、昭和28年の台風13号、伊勢湾台風などにより起こる津波、高潮などの自然災害や海岸侵食が、人々の生活の安全を脅かしてきた。そのため、人々の暮らしの場は自然の脅威を避けて、砂浜・砂丘・海食崖・海岸林に守られた内陸部を中心に形成されてきた。



（このブロックは上記の長い文章の一部を重複して含む）



遠州灘沿岸の範囲

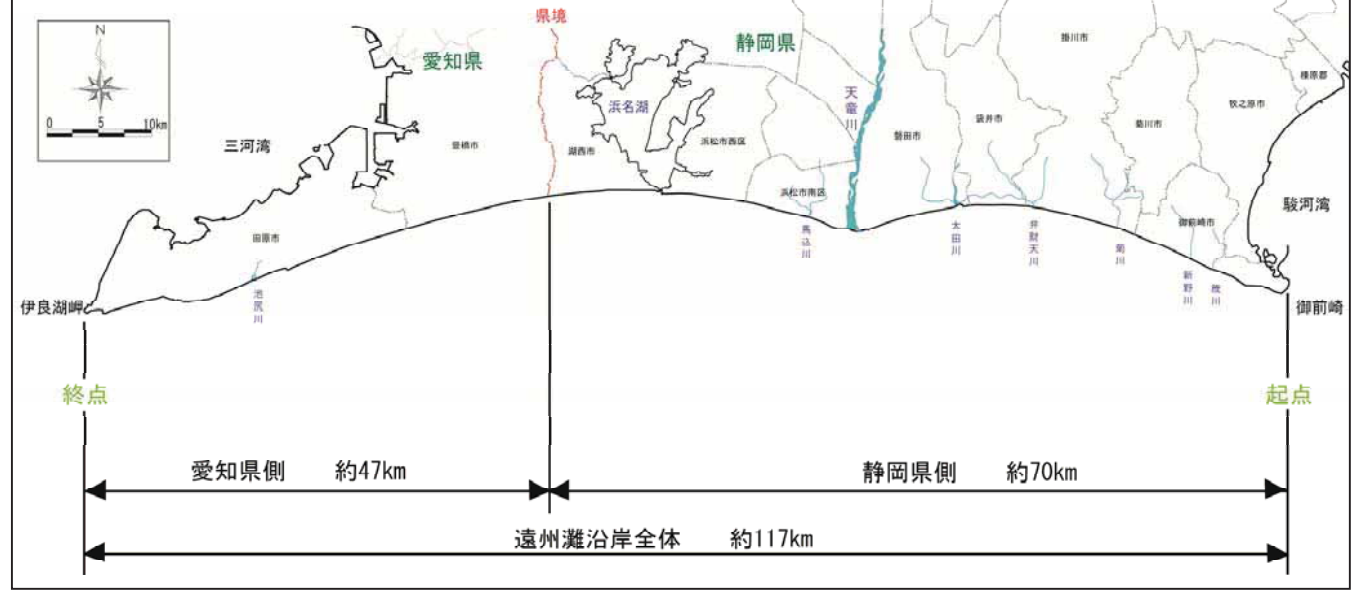
はじめに

遠州灘沿岸は、静岡県の御前崎から愛知県の伊良湖岬に至る約 117km の海岸であり、天竜川河口を頂点として東西に緩やかに弧を描く、わが国有数の長大な砂浜海岸である。その砂浜は、天竜川や渥美半島の海食崖からの土砂により形成されている。静岡県側は、白い砂浜と砂丘を広く覆うクロマツ林による白砂青松と、東端の御前崎の波に洗われる岩礁地形が対照的美しいパノラマを展開している。一方愛知県側は、海食崖と砂浜が連綿と続く片浜十三里、伊良湖岬や日出の石門などの荒々しい岩礁地形と押し寄せる太平洋の荒波とが織りなす雄大な景観が特徴的である。

遠州灘沿岸域は、ほぼ全域が国定公園や県立自然公園に指定されており、特徴ある自然地形と太田川河口部や田原市堀切のハマボウ群落などの希少な自然が残されている。さらに、ほぼ全域の砂浜が全国でも有数なアカウミガメの繁殖の場になっており、その保護活動も各地域で活発に行われている。

遠州灘は波が荒く、流れが速いため海水浴場としての利用はされていないが、釣りや自然にふれあう安らぎの場として地域の人々に親しまれてきた。特に近年は、サーフィンやウインドサーフィンなどの海洋性レクリエーションの場として、遠く関東圏や関西圏からも多く人々が訪れている。

沿岸背後の地域は、温暖な気候に恵まれていることからメロンや電照菊などの施設園芸をはじめとする全国有数の農業生産地である。また、シラス漁をはじめとして、沿岸に豊かな漁場を有していることから漁業も盛んである。かつて浜松藩が奨励した砂地での綿花栽培を起源とする織物機械産業の発達、現在の自動車などの輸送機械をはじめとした日本の先端機械産業の一大工業地帯の形成につながっている。しかし、このような近年の繁栄の一方で、1498年の明応地震をはじめとした記録に残る4度の大地震、昭和28年の台風13号、伊勢湾台風などにより起こる津波、高潮などの自然災害や海岸侵食が、人々の生活の安全を脅かしてきた。そのため、人々の暮らしの場は自然の脅威を避けて、砂浜・砂丘・海食崖・海岸林に守られた内陸部を中心に形成されてきた。

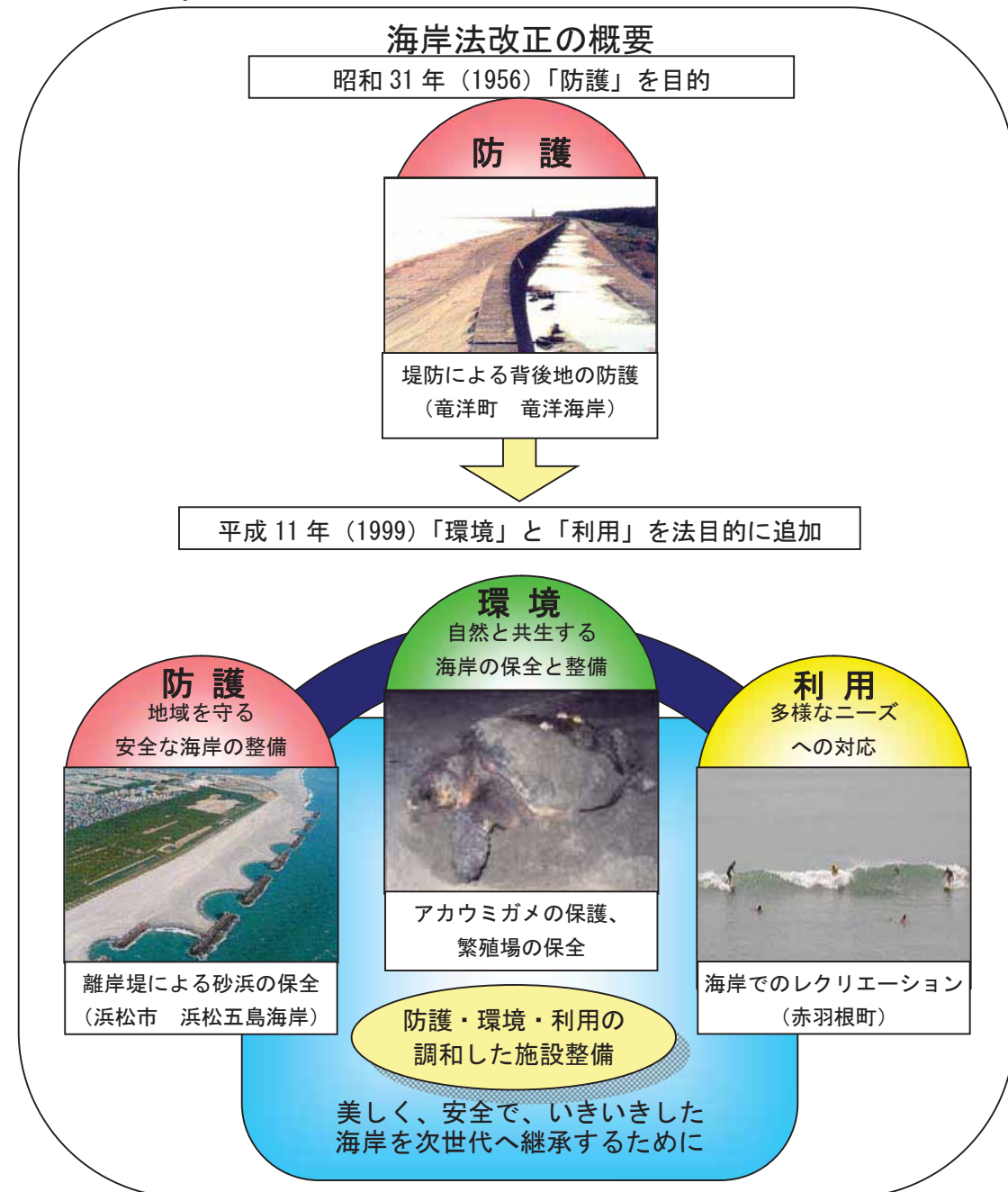


遠州灘沿岸の範囲

遠州灘の砂浜・砂丘・海食崖・海岸林は天然の防護の役割を果たしており、あらゆる営みの生命線である。特に砂浜は、防護だけでなく、動植物の生息・生育の場や、レクリエーションの場として、多様な役割も担っており、遠州灘にはかけがえのないものとなっている。しかしこの砂浜も、近年は沿岸全体が侵食傾向にあり、その保全が最大の課題となっている。また、レクリエーション活動の活発化は、砂浜への車の乗り入れやごみの散乱など、海岸環境への新たな影響も現れており、それらの問題への対応も求められている。

平成 11 年に「海岸法」が改正され、これまでの「災害からの海岸の防護」に加え、「海岸環境の整備や保全」と「公衆の海岸の適正な利用」を図り、地域の意向を十分に配慮した総合的な海岸の保全を推進することになり、国の定めた海岸保全基本方針に沿って、都道府県が海岸保全基本計画を策定することとなった。

そこで、静岡県と愛知県では、遠州灘沿岸を広域的な視点でとらえ、また、地域の人々や専門家の意見を積極的に取り入れながら、「防護」、「環境」、「利用」の調和のとれた海岸づくりを旨とした「遠州灘沿岸海岸保全基本計画」を共同で策定し、各海岸の特性に応じた整備や環境の保全、適正な利用を図っていくものである。



海岸法の改正と今後の海岸管理のイメージ

遠州灘の砂浜・砂丘・海食崖・海岸林は天然の防護の役割を果たしており、あらゆる営みの生命線である。特に砂浜は、防護だけでなく、動植物の生息・生育の場や、レクリエーションの場として、多様な役割も担っており、遠州灘にはかけがえのないものとなっている。しかしこの砂浜も、近年は沿岸全体が侵食傾向にあり、その保全が最大の課題となっている。また、レクリエーション活動の活発化は、砂浜への車の乗り入れやごみの散乱など、海岸環境への新たな影響も現れており、それらの問題への対応も求められている。

平成 11 年に「海岸法」が改正され、これまでの「災害からの海岸の防護」に加え、「海岸環境の整備や保全」と「公衆の海岸の適正な利用」を図り、地域の意向を十分に配慮した総合的な海岸の保全を推進することになり、国の定めた海岸保全基本方針に沿って、都道府県が海岸保全基本計画を策定することとなった。**また、平成 26 年の同法の一部改正により「海岸の防災・減災対策の強化」、「海岸の適切な維持管理の確保」が位置づけられた。**

そこで、静岡県と愛知県では、遠州灘沿岸を広域的な視点でとらえ、また、地域の人々や専門家の意見を積極的に取り入れながら、「防護」、「環境」、「利用」の調和のとれた海岸づくりを旨とした『遠州灘沿岸海岸保全基本計画』を共同で策定し、各海岸の特性に応じた整備や環境の保全、適正な利用を図っていくものである。



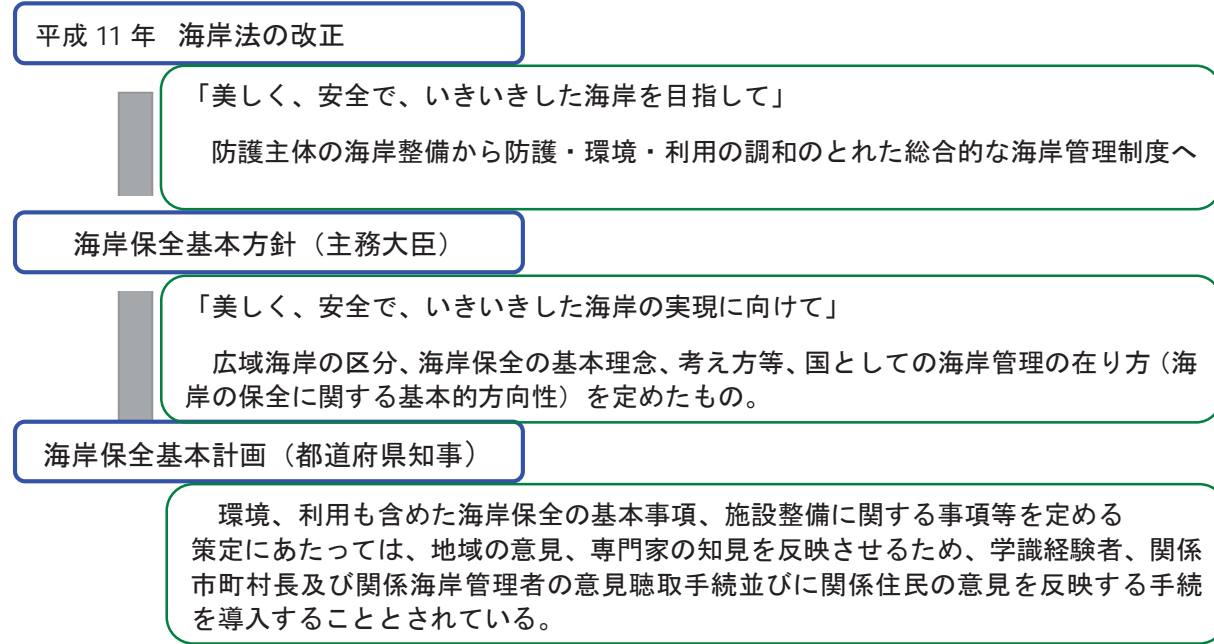
海岸法の改正と今後の海岸管理のイメージ

遠州灘沿岸海岸保全基本計画の策定にあたって

◎ 海岸保全基本計画の位置付け

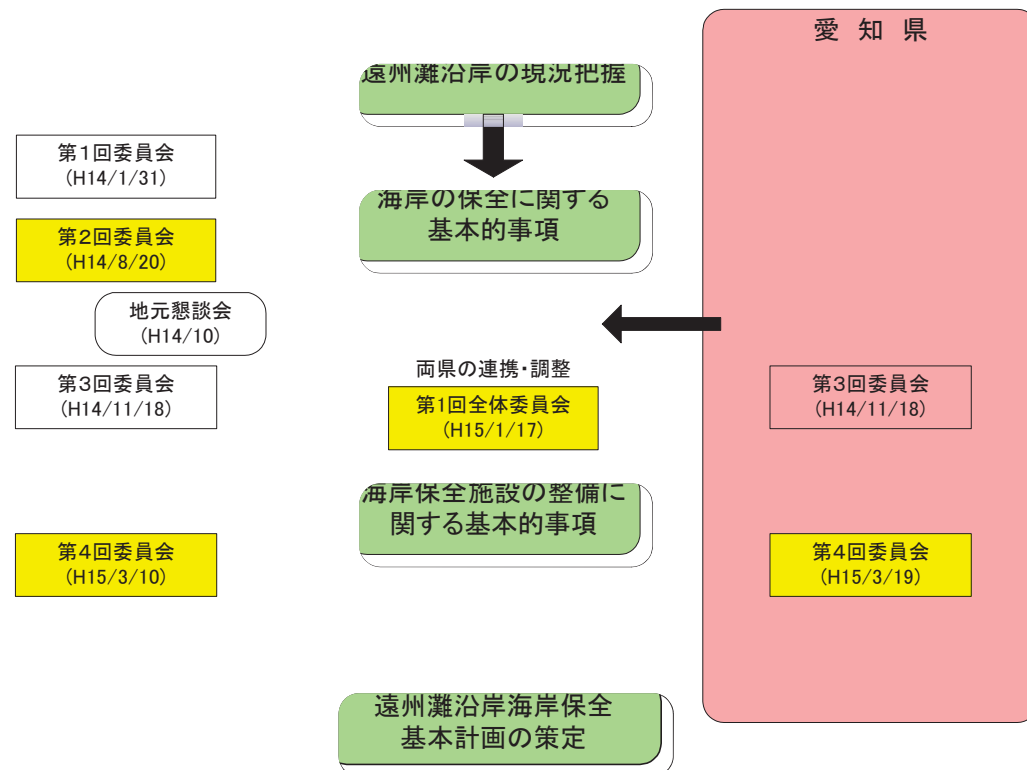
平成 11 年に海岸法が改正され、その目的が「海岸の防護」に「海岸環境の整備と保全」、「公衆の海岸の適正な利用の確保」を加えたものとなった。

海岸法の改正、海岸保全基本方針、海岸保全基本計画の関係については、下図に示すとおりである。



新しい海岸保全の計画制度

◎ 遠州灘沿岸海岸保全基本計画策定フロー

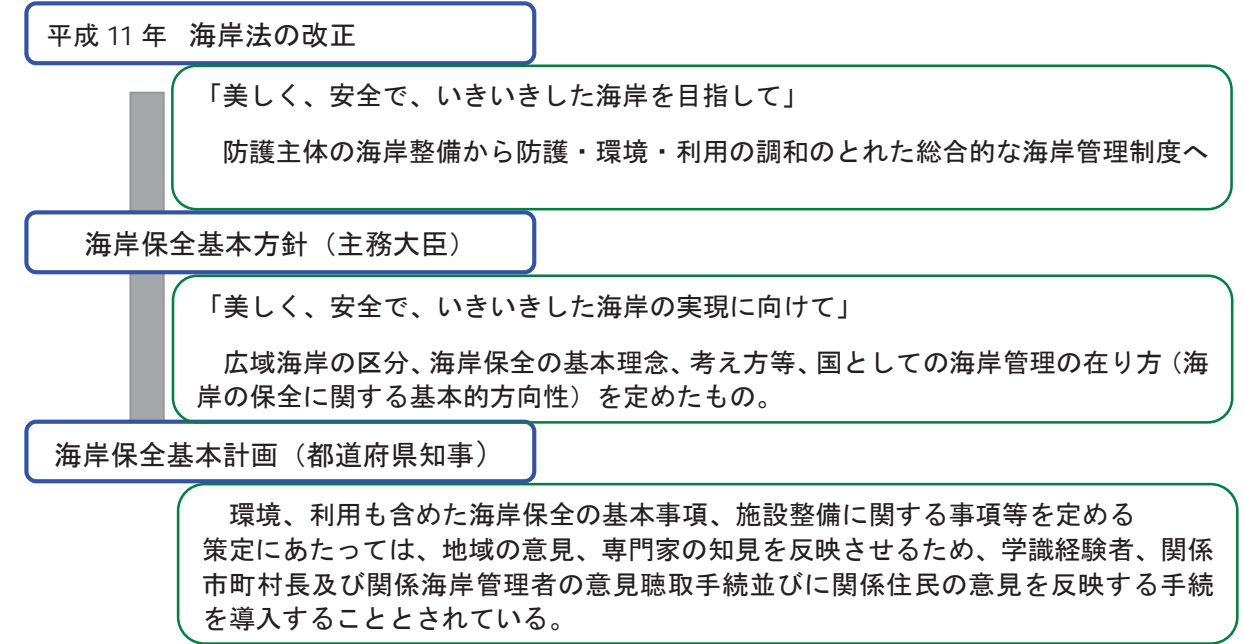


遠州灘沿岸海岸保全基本計画の策定にあたって

◎ 海岸保全基本計画の位置付け

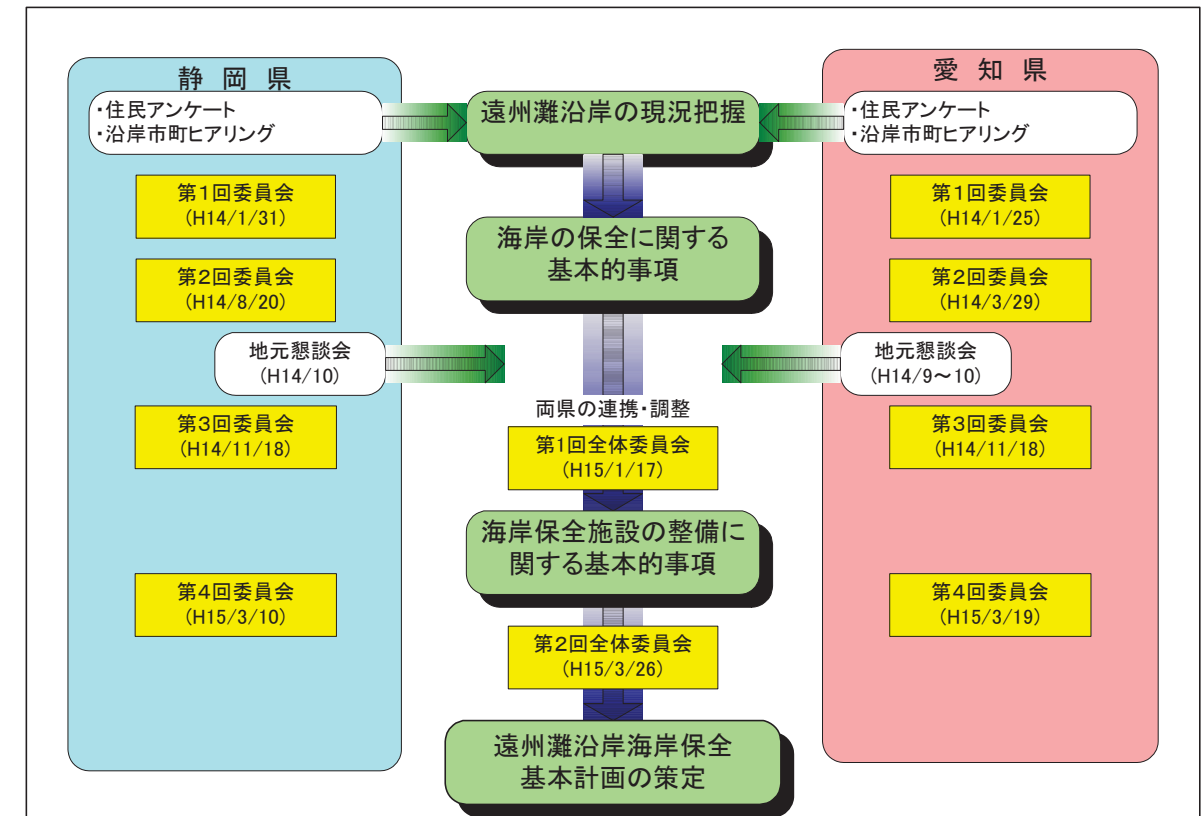
平成 11 年に海岸法が改正され、その目的が「海岸の防護」に「海岸環境の整備と保全」、「公衆の海岸の適正な利用の確保」を加えたものとなった。

海岸法の改正、海岸保全基本方針、海岸保全基本計画の関係については、下図に示すとおりである。



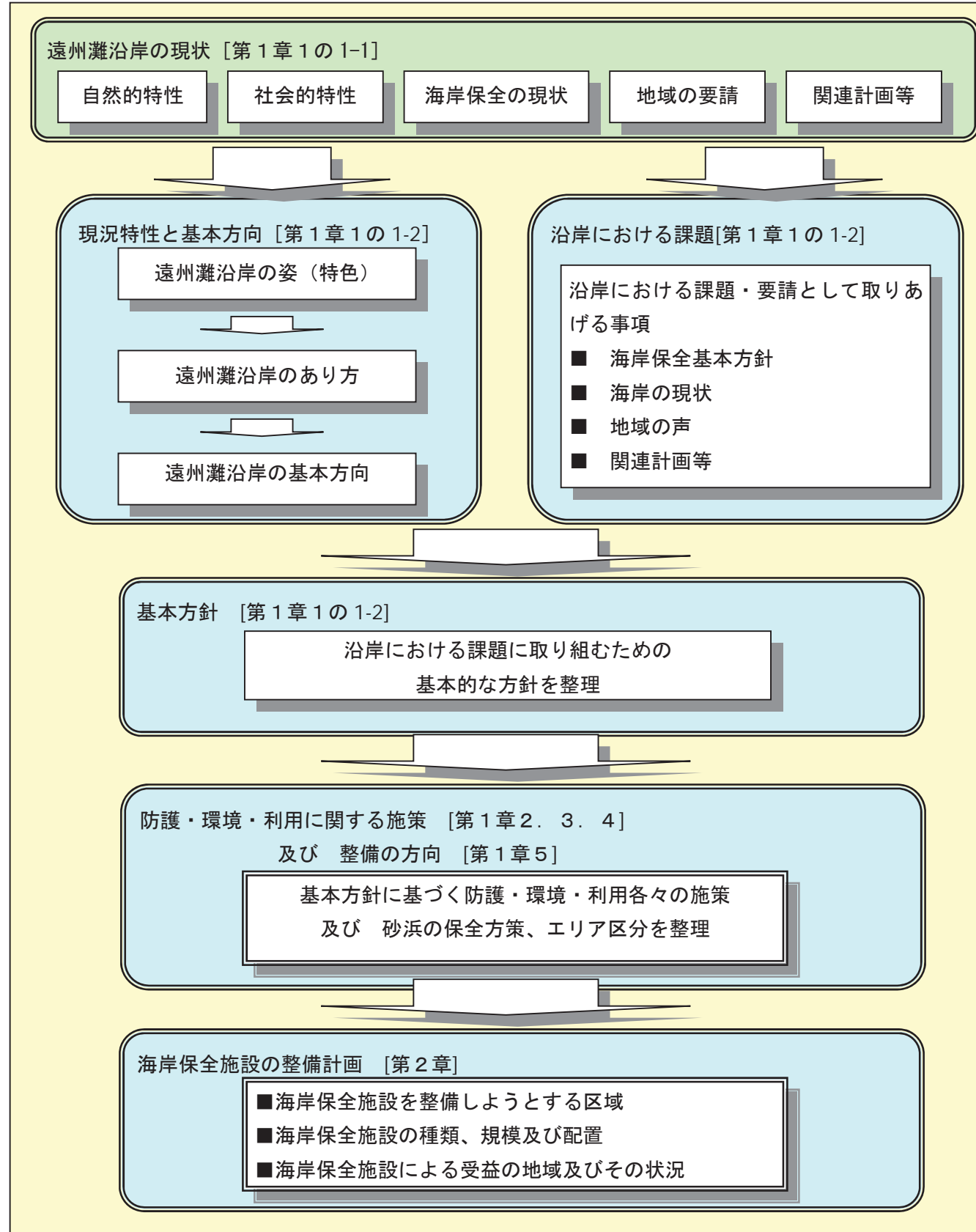
新しい海岸保全の計画制度

◎ 遠州灘沿岸海岸保全基本計画策定フロー（平成 15 年 7 月策定）



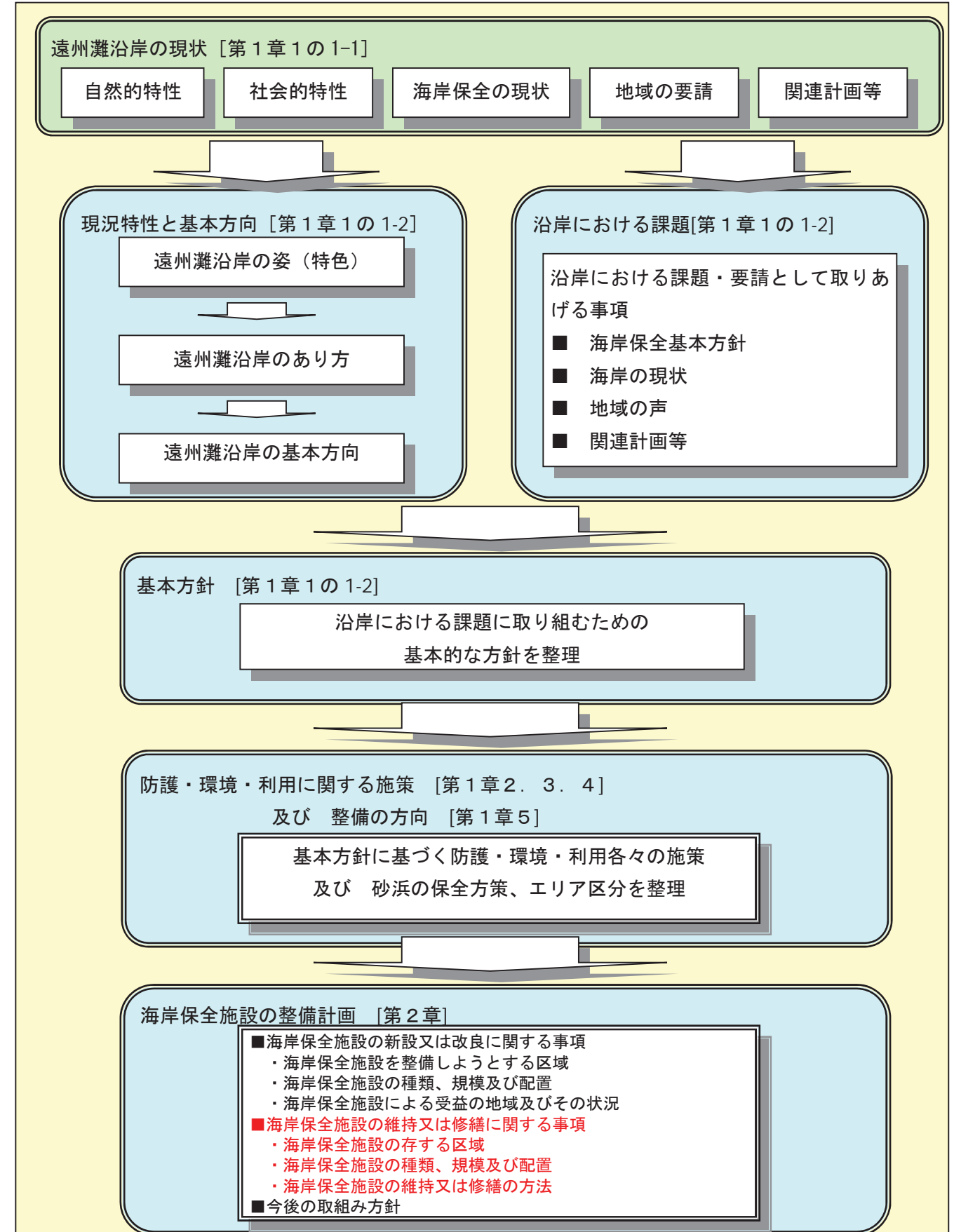
◎ 遠州灘沿岸海岸保全基本計画の整理手順及び構成

遠州灘沿岸海岸保全基本計画は、沿岸の現状をふまえて、下記の手順及び構成により沿岸のあり方、沿岸における課題・要請事項、課題に取り組むための基本方針及び施策について、静岡県と愛知県が共同して作成する計画である。



◎ 遠州灘沿岸海岸保全基本計画の整理手順及び構成

遠州灘沿岸海岸保全基本計画は、沿岸の現状をふまえて、下記の手順及び構成により沿岸のあり方、沿岸における課題・要請事項、課題に取り組むための基本方針及び施策について、静岡県と愛知県が共同して作成する計画である。



遠州灘沿岸海岸保全基本計画の変更にあたって

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は、過去数百年間の経験を基にした地震被害想定
の限界、避難行動の遅れによる多くの犠牲者の発生、長時間にわたる停電や燃料の供給停止による災
害応急活動の遅れなど多くの教訓を残した。

静岡県では、この教訓をもとに地震・津波対策の総合的な検討・見直しを進め、平成 24 年 12 月に「今
後の地震・津波対策の方針」を策定するとともに、平成 25 年 6 月に今後の地震・津波対策の基礎資料
となる「第 4 次地震被害想定（第一次報告）」、同 11 月に「同（第二次報告）」、同時に対策の行動目標
である「地震・津波対策アクションプログラム 2013」を公表した。

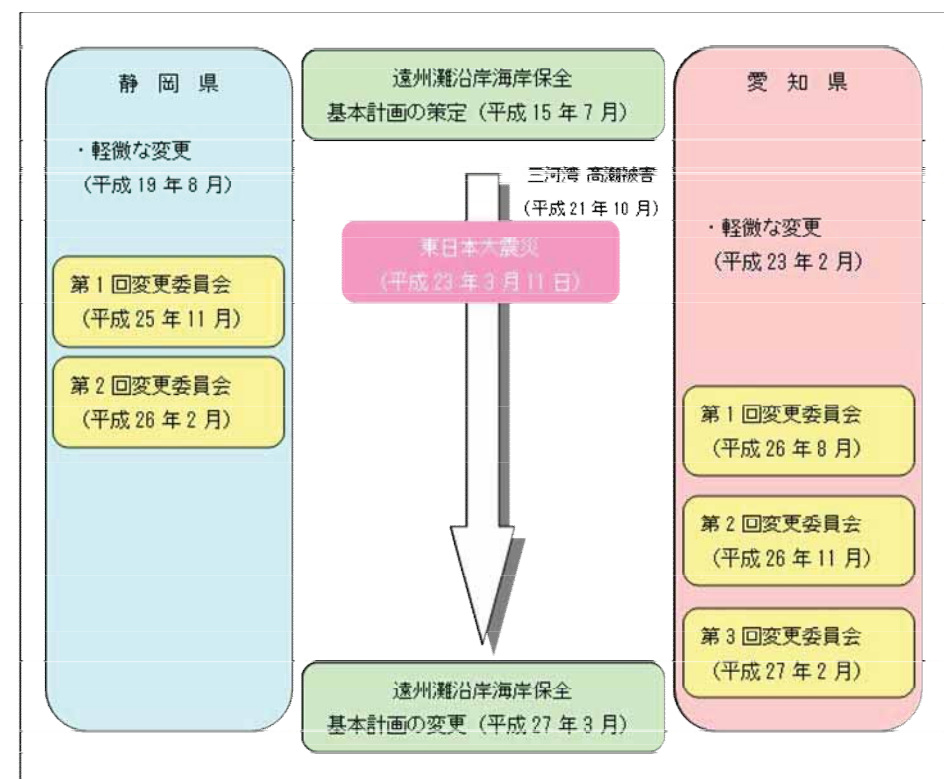
愛知県では、津波の実態や被害に関する新たな知見、津波防災への新たな考え方が国から示されたこ
と、さらには、平成 21 年 10 月に来襲した台風 18 号により愛知県沿岸部に高潮被害が生じたことを踏
まえ、「東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」（平成 23～26 年）、「愛知県沿岸部における
津波・高潮対策検討会」（平成 23～25 年）を実施し、津波、高潮に対する被害予測、海岸の防護水準や
防災の考え方などに関する検討を行なうとともに、地震から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくり
を目指す「第 3 次あいち地震対策アクションプラン」を平成 26 年 12 月に公表した。

また、平成 26 年 12 月には、海岸保全基本計画に定めるべき基本的な事項に、海岸保全施設の維持
又は修繕に関する事項が追加された。

以上を踏まえ、主に津波からの防護面に関しての新たな知見や総合的な津波防災への考え方に従い、
『遠州灘沿岸海岸保全基本計画』における「海岸の保全に関する基本的な事項」及び「海岸保全施設の
整備に関する事項」を見直し、本計画を変更するものである。

◎ 遠州灘沿岸海岸保全基本計画の変更履歴

- 平成 15 年 7 月 策定 : 静岡県・愛知県 共同策定
- 平成 19 年 8 月 変更 : 静岡県 海岸保全施設の整備に関する事項の軽微な変更
- 平成 23 年 2 月 変更 : 愛知県 海岸保全施設の整備に関する事項の軽微な変更
- 平成 27 年 3 月 変更 : 静岡県・愛知県 東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）を契機とした
新たな知見の反映



第1章 海岸の保全に関する基本的な事項

1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

1-1 遠州灘沿岸の現状

(1) 自然的特性

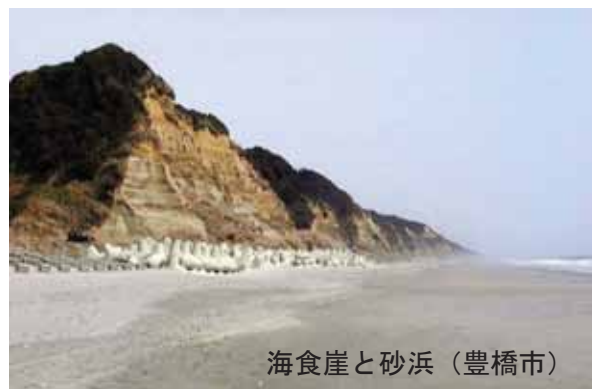
① 海岸地形

遠州灘沿岸の海岸地形は、砂浜、砂丘、岩礁海岸、海食崖によって形成されており、沿岸全体は主に長大な砂浜が続く二つの美しい曲線状の海岸で構成されている。海底地形は、水深 20m以浅の等深線が海岸線から約 2～3km程度離れてほぼ平行に位置していることから、比較的遠浅といえる。概ね、海岸が直線的な部分は砂浜海岸に、やや海側に張り出している部分が岩礁海岸となっている。

豊橋市から渥美町にかけての海岸背後は海食崖となっている箇所が多く、田原町には 60m程度の高さがある箇所も見られ、渥美半島は幅 5～9km、長さ 40km に及ぶ丘陵性の洪積台地によって形成されている。また、西端付近の赤羽根町から渥美町にかけて岩礁海岸が存在する。



岩礁海岸（渥美町）



海食崖と砂浜（豊橋市）

湖西市から東側では、浜岡砂丘や中田島砂丘に代表される砂丘がほぼ全域にわたって発達している。東端の御前崎は海成段丘地形をなし、高さ約40mの急峻な海食崖が形成されており、その前方は波食台の岩礁が広がっている。なお、御前崎の「白羽の風蝕礫産地」は国指定の天然記念物である。

静岡県側で見られる砂丘については、いずれの砂丘も幅数十～200m程度あり、海岸防災林で覆われている。これらは、古来より悩まされてきた海岸災害から背後地を守る盾として営々と築きあげられてきたものである。砂丘の前面には、堤防・護岸または土堤がほぼ全域に設置されている。その前面にも小規模の砂丘があり、そこから約 50～150m程の砂浜が広がり、海へと至っている。

海底地形をみると、天竜川河口の左岸に位置する竜洋海岸前面には河口海底谷が迫っており、波の集中、発散が生じやすい地形となっている。水深 3～5m付近には「瀬」と呼ばれる沿岸砂州（バー地形）が存在する箇所が多く、典型的な暴風海浜の様相を呈している。暴風海浜とは、沿岸砂州が存在する侵食型の海浜のことであり、暴風時に波の砕波地点が沖へ移動する事に伴い、岸側の砂が沖へと移動するために形成されるものと考えられている。



砂浜（浅羽町）



浜岡砂丘（浜岡町）

第1章 海岸の保全に関する基本的な事項

1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

1-1 遠州灘沿岸の現状

(1) 自然的特性

① 海岸地形

遠州灘沿岸の海岸地形は、砂浜、砂丘、岩礁海岸、海食崖によって形成されており、沿岸全体は主に長大な砂浜が続く二つの美しい曲線状の海岸で構成されている。海底地形は、水深 20m以浅の等深線が海岸線から約 2～3km程度離れてほぼ平行に位置していることから、比較的遠浅といえる。概ね、海岸が直線的な部分は砂浜海岸に、やや海側に張り出している部分が岩礁海岸となっている。

豊橋市から田原市高松町にかけての海岸背後は海食崖となっている箇所が多く、田原市六連町には 60m程度の高さがある箇所も見られ、渥美半島は幅 5～9km、長さ 40km に及ぶ丘陵性の洪積台地によって形成されている。また、伊良湖岬先端、日出町、和地町には岩礁海岸が存在する。



① 岩礁海岸（田原市伊良湖）



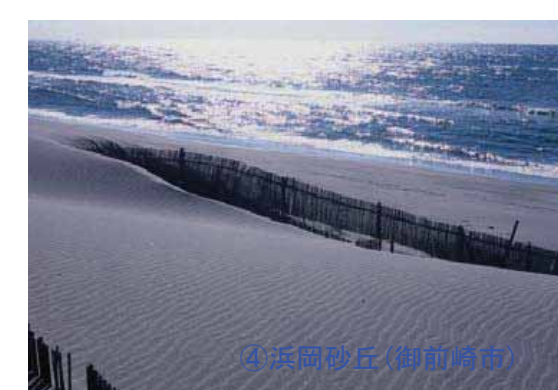
② 海食崖と砂浜（田原市六連町）

静岡県側で見られる砂丘については、いずれの砂丘も幅数十～200m程度あり、海岸防災林で覆われている。これらは、古来より悩まされてきた海岸災害から背後地を守る盾として営々と築きあげられてきたものである。砂丘の前面には、堤防・護岸または土堤がほぼ全域に設置されている。その前面にも小規模の砂丘があり、そこから約 50～150m程の砂浜が広がり、海へと至っている。

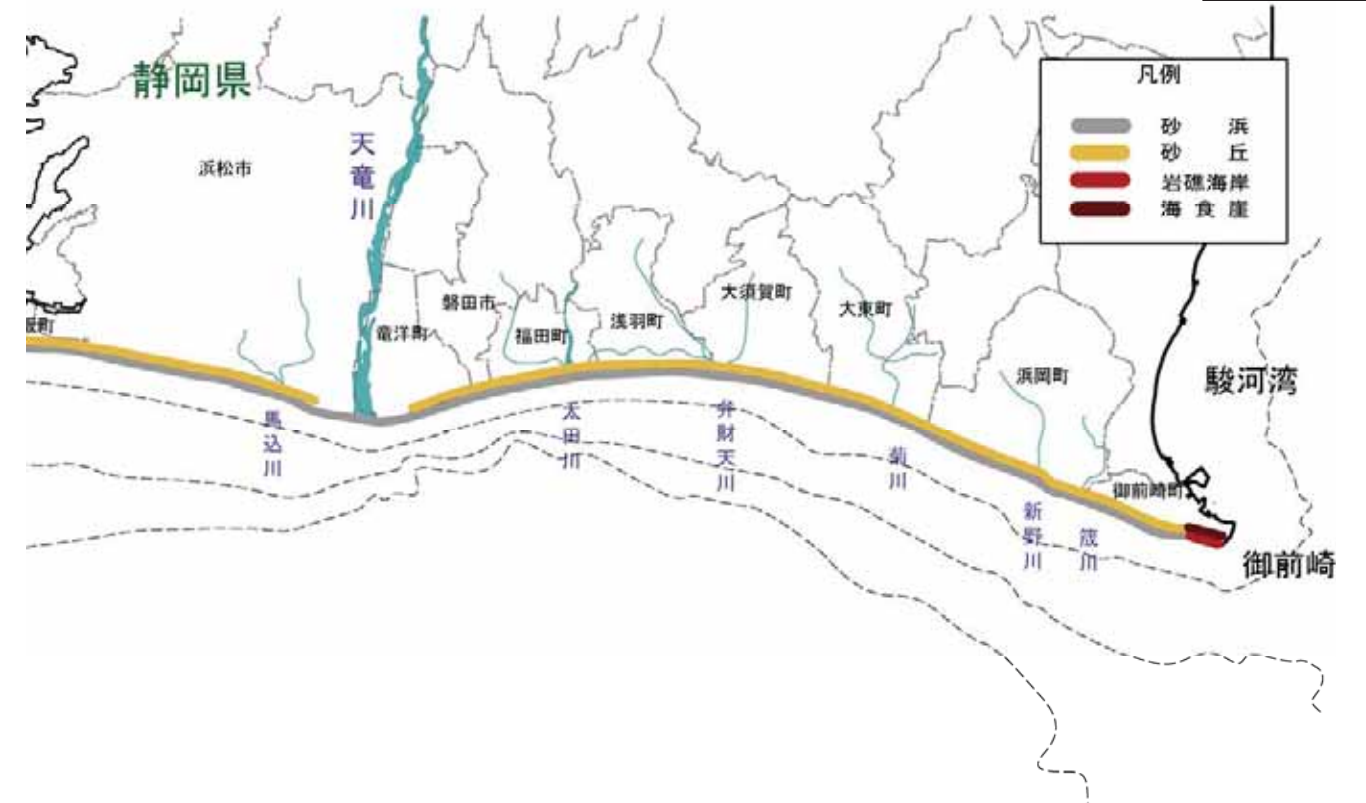
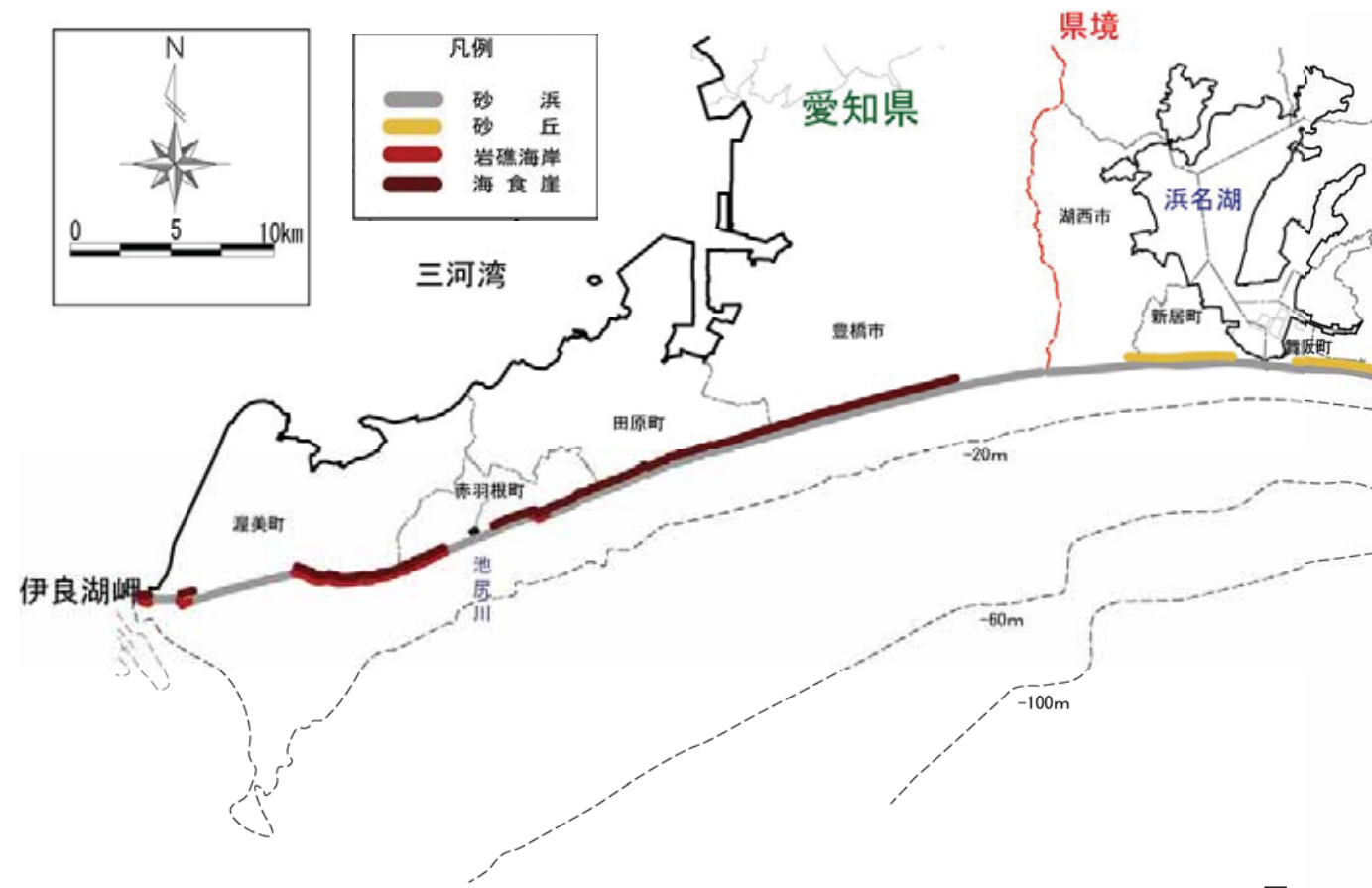
海底地形をみると、天竜川河口の左岸に位置する竜洋海岸前面には河口海底谷が迫っており、波の集中、発散が生じやすい地形となっている。水深 3～5m付近には「瀬」と呼ばれる沿岸砂州（バー地形）が存在する箇所が多く、典型的な暴風海浜の様相を呈している。暴風海浜とは、沿岸砂州が存在する侵食型の海浜のことであり、暴風時に波の砕波地点が沖へ移動する事に伴い、岸側の砂が沖へと移動するために形成されるものと考えられている。



③ 広大な砂浜（袋井市）



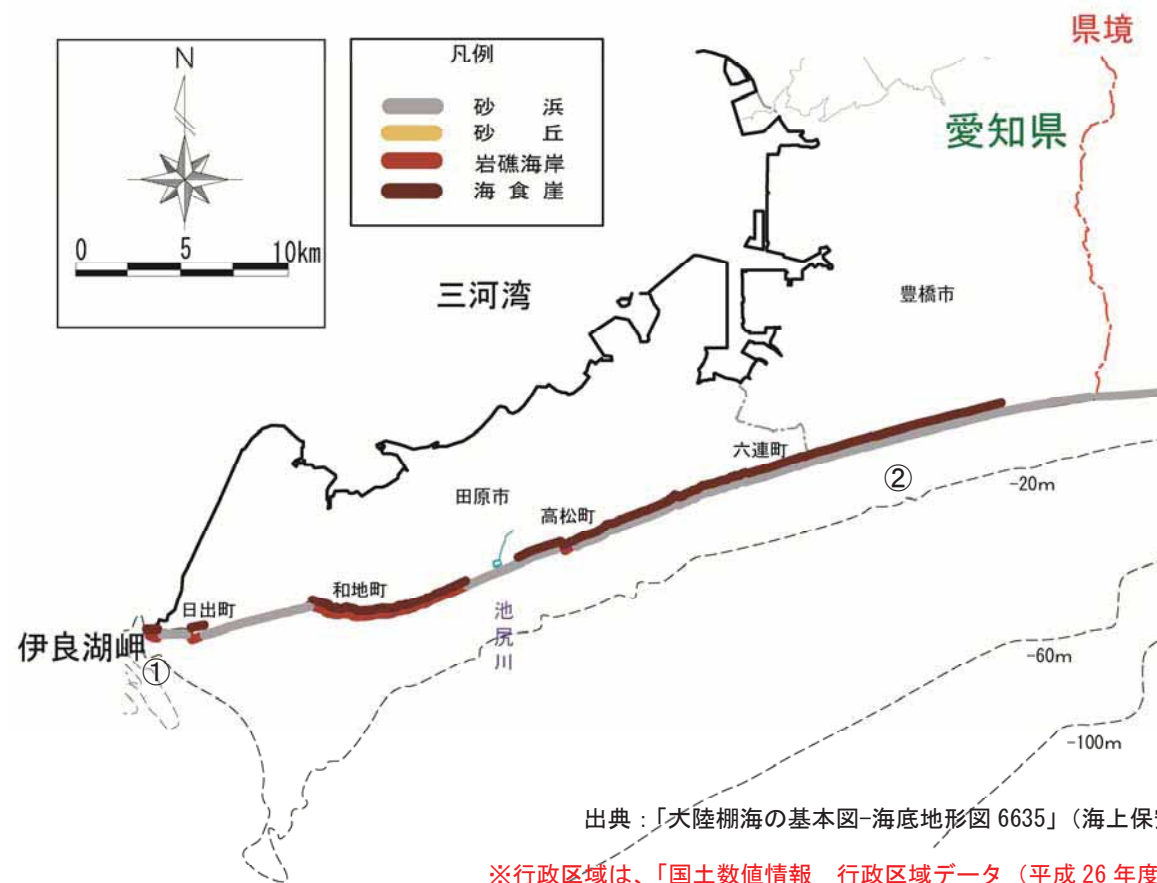
④ 浜岡砂丘（御前崎市）



出典：「20 万分の 1 地勢図」（国土地理院）をもとに作成
地形分類は「地形図」（国土地理院）より判読

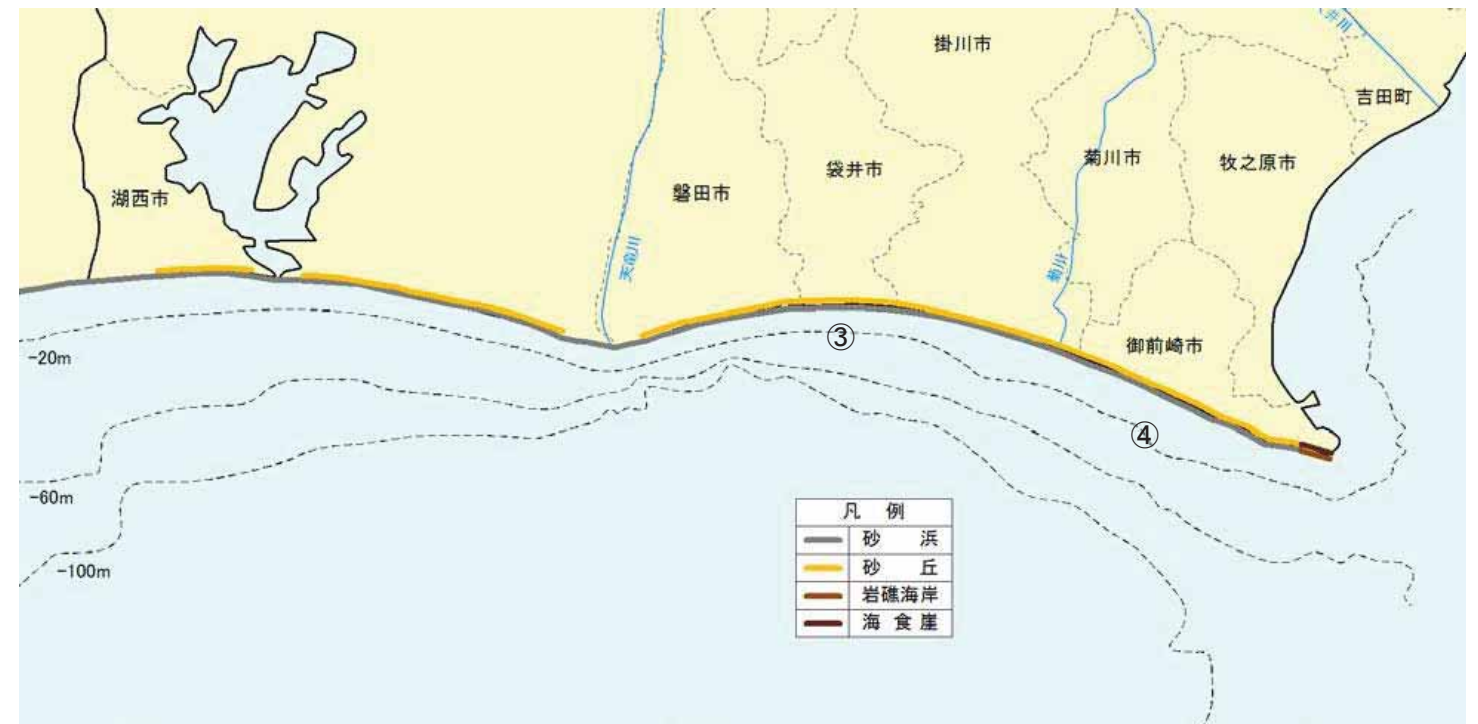
図 1.1.1 遠州灘沿岸の海岸地形状況図

変更記載内容（案）



出典：「大陸棚海の基本図-海底地形図 6635」（海上保安庁）

※行政区域は、「国土数値情報 行政区域データ（平成 26 年度）」による。



資料：「20 万分の 1 地勢図」（国土地理院）を元に作成。地形分類は「地形図」（国土地理院）より判読。

図 1.1.1 遠州灘沿岸の海岸地形状況図

② 海岸景観

遠州灘沿岸は、御前崎から天竜川をはさみ、伊良湖岬にいたるまで延々と連なるわが国有数の長大な砂浜海岸であり、その砂浜を中心に砂丘や海食崖などによる遠州灘の特色ある様々な海岸景観を有している。

以下のものは、良好な景観があるとして各種の指定を受けている。

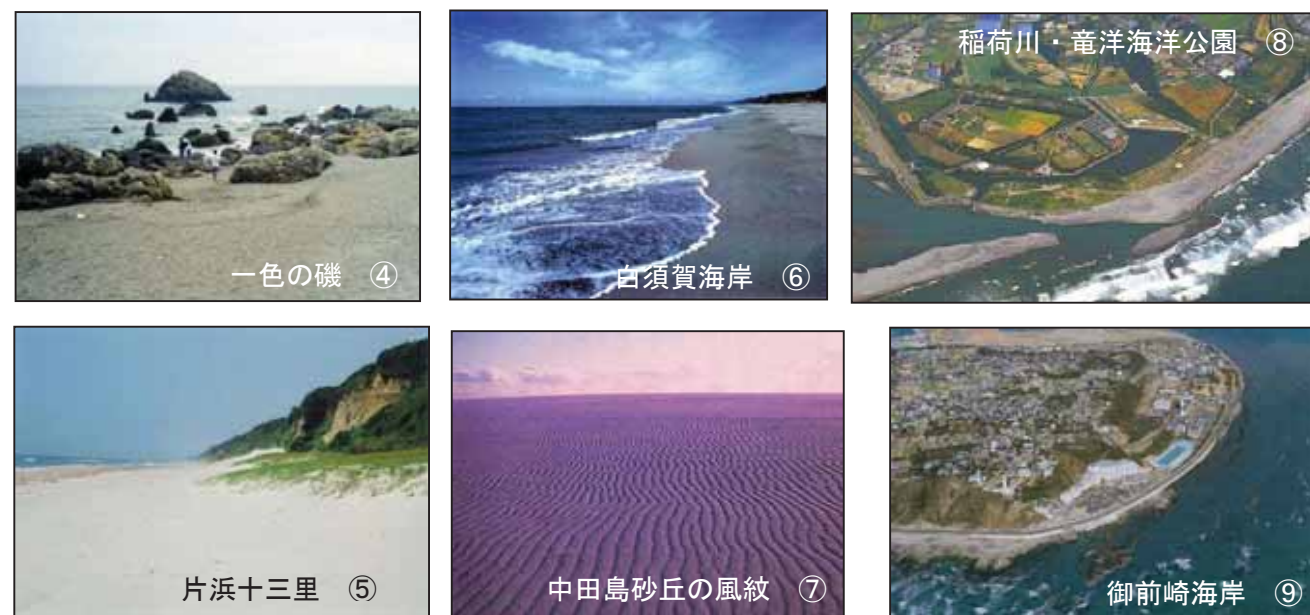
- 恋路ヶ浜：日本の渚・百選（日本の渚・百選選定委員会）、日本の音風景 100 選（環境省）
- 遠州灘の海鳴・波小僧：日本の音風景 100 選（環境省）
- 御前崎海岸、稲荷川・竜洋海洋公園、白須賀海岸：静岡県の水辺 100 選（静岡県）
- 駒場海岸（竜洋海岸）：静岡県の富士見二百景（静岡県）
- 夕日と風が見える台（御前崎町）：日本の夕日百選（日本の夕日百選選考委員会）

愛知県域では、砂浜だけでなく、海食崖、岩礁など変化に富んでおり、渥美半島の先端に位置する伊良湖岬、湾曲する美しい砂浜の恋路ヶ浜、波による洞穴がある日出の石門、海食崖と砂浜が連なる片浜十三里（表浜）は特に有名である。



静岡県域では、白い砂浜とクロマツ林からなる白砂青松の景観がその特徴である。また、砂と風による自然の造形美である風紋は砂丘ならではの景観で、浜岡砂丘および中田島砂丘などが代表的である。一方、太平洋に向かって突き出した御前崎は、段丘上に御前崎灯台がランドマークとしてそびえ、低木化した樹林や岩礁の海岸が岬の趣を醸し出している。灯台（御前崎、掛塚、五島など）、河口を渡る橋（潮騒橋、弁財天川橋、浜名大橋など）、潮見坂などは地域住民に親しまれ、また観光資源としてシンボリックな存在となっている。

（出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」（環境庁，1989）、「第3回自然環境保全基礎調査 静岡県自然環境情報図」（環境庁，1989年））



② 海岸景観

遠州灘沿岸は、天竜川をはさみ、御前崎から伊良湖岬にいたるまで、延々と砂浜が連なるわが国有数の長大な砂浜海岸を有しており、その砂浜を中心に砂丘や海食崖などによる遠州灘の特色ある様々な海岸景観が育まれている。

愛知県域では、砂浜だけでなく、海食崖、岩礁など変化に富んでおり、渥美半島の先端に位置する伊良湖岬、湾曲する美しい砂浜の恋路ヶ浜、波による洞穴がある日出の石門、海食崖と砂浜が連なる片浜十三里（表浜）は特に有名である。

静岡県域では、砂丘がほぼ全域にわたって発達し、背後を覆うクロマツ林とともに白砂青松の美しい景観を誇っている。砂と風による自然の造形美である風紋は砂丘ならではの景観で、浜岡砂丘および中田島砂丘などが代表的である。

一方、太平洋に向かって突き出した御前崎は、段丘上に御前崎灯台がランドマークとしてそびえ、低木化した樹林や岩礁の海岸が岬の趣を醸し出している。

灯台（御前崎、掛塚、五島など）、河口付近の橋（潮騒橋、弁財天川橋、浜名大橋など）、潮見坂などは地域住民に親しまれ、また観光資源としてシンボリックな存在となっている。

以下、良好な景観として各種の指定を受けている。

- 恋路ヶ浜：日本の渚・百選（日本の渚・百選選定委員会）、日本の音風景 100 選（環境省）
- 伊良湖灯台、恋路ヶ浜、日出の石門、渥美半島サイクリングロード、赤羽根海岸、一色の磯、弥八島海岸、表浜の海岸・砂丘：美しい愛知づくり景観資源 600 選（愛知県）
- 遠州灘の海鳴・波小僧：日本の音風景 100 選（環境省）
- 御前崎海岸、稲荷川・竜洋海洋公園、白須賀海岸：静岡県の水辺 100 選（静岡県）
- 駒場海岸（竜洋海岸）：静岡県の富士見二百景（静岡県）
- 夕日と風が見える台（御前崎町）：日本の夕日百選（日本の夕日百選選考委員会）





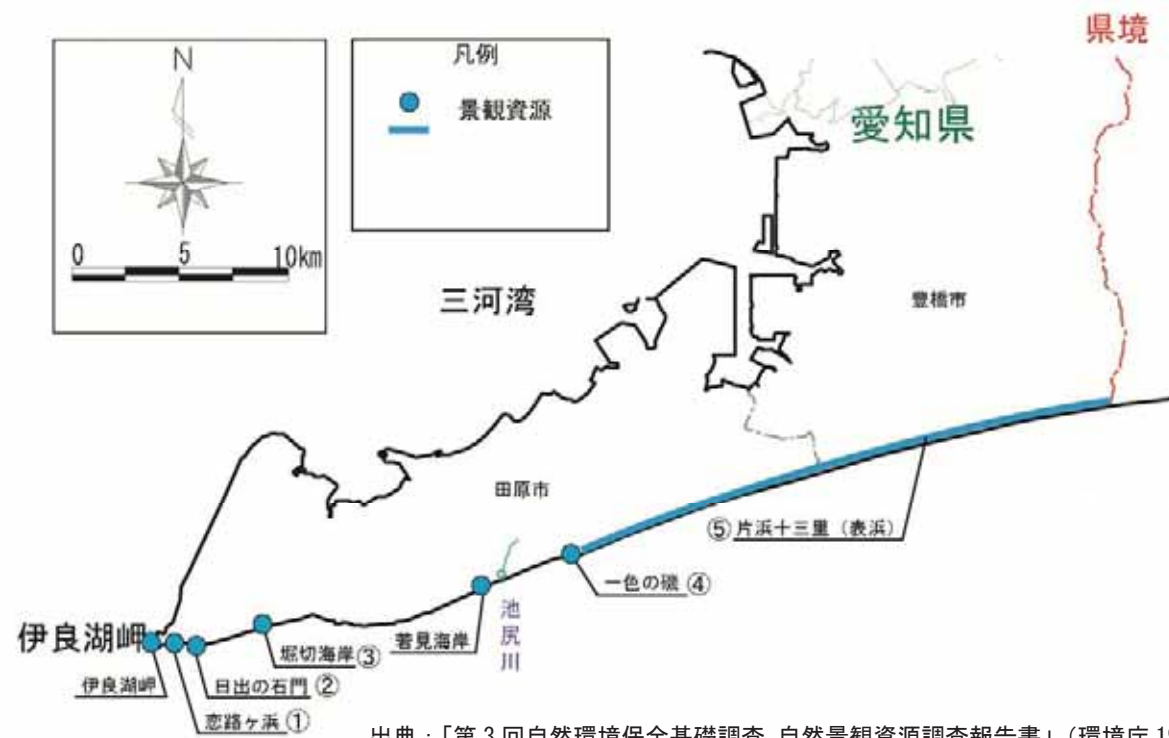
出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁, 1989)



出典：「第3回自然環境保全基礎調査 静岡県自然環境情報図」(環境庁, 1989年)
「静岡県のみずべ100選」(静岡県, 1993年3月)

図 1.1.2 遠州灘沿岸の景観資源状況図

変更記載内容 (案)



出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁 1989)



出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁 1989)
「静岡県のみずべ100選」(静岡県, 1993年3月)

※行政区画は、「国土数値情報 行政区画データ (平成26年度)」による。 図 1.1.2 遠州灘沿岸の景観資源状況図

③ 海岸の植物

遠州灘沿岸の海岸は大部分が砂浜であり、その一見単調に見える砂浜海岸も、海と陸とが接した生態系の移行帯（エコトーン）が形成されている。砂浜には、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマエンドウ、ハマニガナ、ハマアザミ、ケカモノハシ、汀線付近のオカヒジキなどの海浜性植物の生育が見られ、愛知県域では海食崖周辺のハマヒサカキ、トベラ等の風衝低木林へ、静岡県域では砂丘背後のクロマツ林へと移行する

愛知県域の沿岸部には、“宮山原生林（国指定天然記念物）”“三島神社の照葉樹林帯”“堀切のハマボウ野生地（県指定天然記念物）”などの特定植物群落もある他、保全を要する植物の分布が確認されている。海食崖の上から内陸にかけては樹林が発達しており、第2回自然環境保全基礎調査（植生調査）による現存植生図からは、タブ群落やマサキトベラ群集が混じるものとなっている。ハマヒサカキ、ネズミモチ、ヤブツバキ等の海岸林は、潮風や飛砂などの海からの影響を遮断することで、内陸部の気候をより温暖なものにする効果があるなど重要な役割を果たしている。



海浜部にみられる植物（ハマヒルガオ、コウボウムギ）



風衝低木林（渥美町 恋路ヶ浜背後）

静岡県域の遠州灘に注ぐ河川の河口部には、その場特有の環境と生物相が形成されており、太田川河口部などにはハマボウ群落が見られる。崖斜面には強い風が吹き付けることから、丈が低く低木化したクロマツ、トベラ、ヒメユズリハなどが林を形成し、ハマグルマ、イワダレソウ、ヤブツバキ、スカシユリ、イソギク、ツワブキなどが四季を彩る。沿岸部には桜ヶ池池畔スタジイ林等の特定植物群落が見られる。

（出典：「第2回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図」（1981、環境庁）、「第3回自然環境保全基礎調査・特定植物群落調査報告書」（1988、環境庁）、「ふるさとの自然」（静岡県）、「静岡の文化」（財）静岡県文化財団）、「ウォッチングしずおかの自然」（杉野孝雄編）、「静岡県の海」（静岡新聞社）、「遠州海岸」（建設省浜松工事事務所）、「平成6年度海浜動植物調査業務委託報告書」（静岡県自然保護課）



海浜性植物群落



クロマツ林

③ 海岸の植物

遠州灘沿岸の海岸は大部分が砂浜であり、その一見単調に見える砂浜海岸も、海と陸とが接した生態系の移行帯（エコトーン）が形成されている。砂浜には、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマエンドウ、ハマニガナ、ハマアザミ、ケカモノハシ、汀線付近のオカヒジキなどの海浜性植物の生育が見られ、愛知県域では海食崖周辺のハマヒサカキ、トベラ等の風衝低木林へ、静岡県域では砂丘背後のクロマツ林へと移行する

愛知県域の沿岸部には、“宮山原生林（国指定天然記念物）”“三島神社の照葉樹林帯”“堀切のハマボウ野生地（県指定天然記念物）”などの特定植物群落もある他、保全を要する植物の分布が確認されている。海食崖の上から内陸にかけては樹林が発達しており、「第6回(H11~16),7回(H17~)自然環境保全基礎調査植生調査(植生図)」（環境省）からは、タブ群落やマサキトベラ群集が混じるものとなっている。ハマヒサカキ、ネズミモチ、ヤブツバキ等の海岸林は、潮風や飛砂などの海からの影響を遮断することで、内陸部の気候をより温暖なものにする効果があるなど重要な役割を果たしている。



海浜部にみられる植物（ハマヒルガオ、コウボウムギ）



風衝低木林（田原市 恋路ヶ浜背後）

静岡県域の遠州灘に注ぐ河川の河口部には、その場特有の環境と生物相が形成されており、太田川河口部などにはハマボウ群落が見られる。また、崖斜面には強い風が吹き付けることから、丈が低く低木化したクロマツ、トベラ、ヒメユズリハなどが林を形成し、ハマグルマ、イワダレソウ、ヤブツバキ、スカシユリ、イソギク、ツワブキなどが四季を彩る。沿岸部には桜ヶ池池畔スタジイ林等の特定植物群落が見られる。

（出典：「第2回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図」（1981、環境庁）、「第3回自然環境保全基礎調査・特定植物群落調査報告書」（1988、環境庁）、「ふるさとの自然」（静岡県）、「静岡の文化」（財）静岡県文化財団）、「遠州海岸」（建設省浜松工事事務所）、「平成6年度海浜動植物調査業務委託報告書」（静岡県自然保護課）



ハマヒルガオの群生



クロマツ林

資料：遠州灘沿岸侵食対策検討委員会検討資料

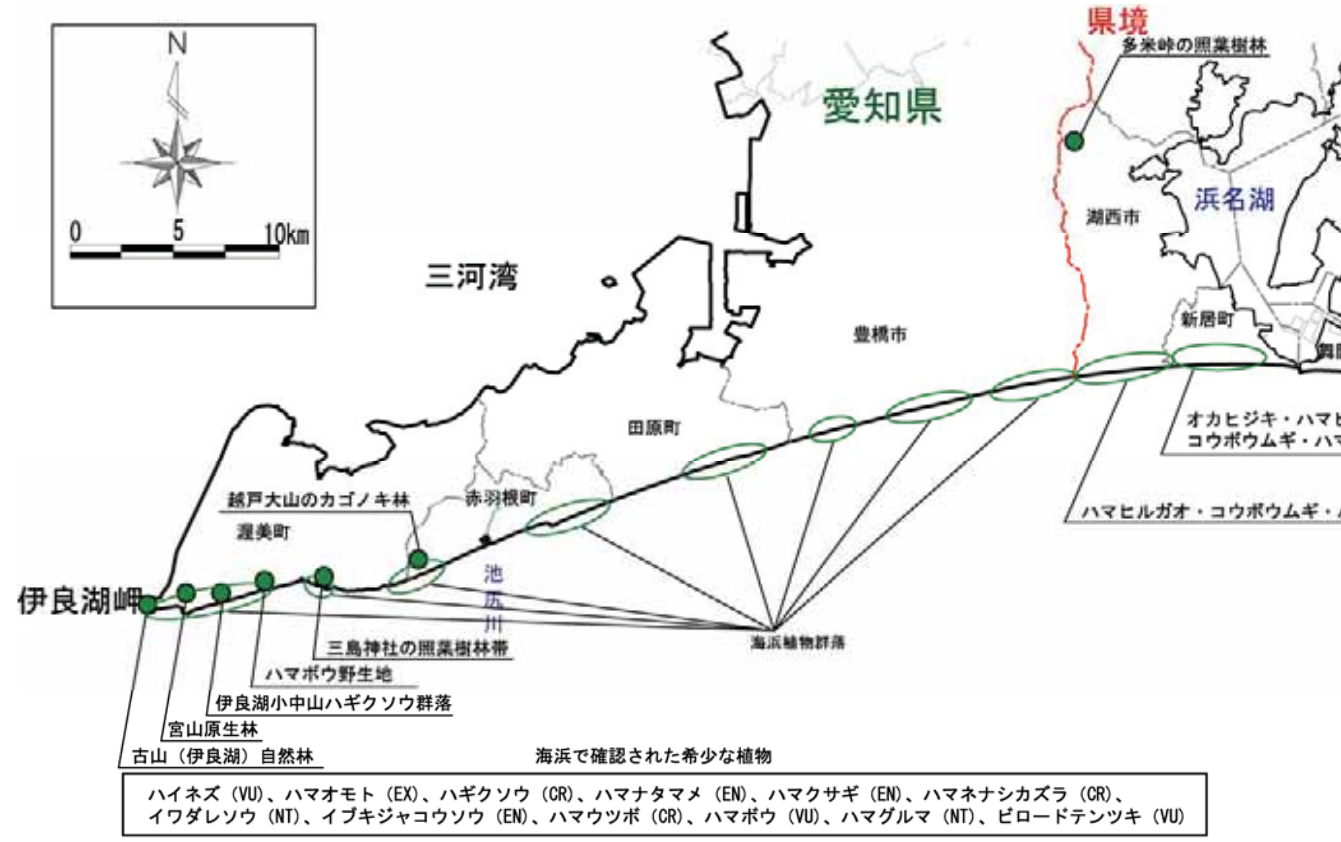
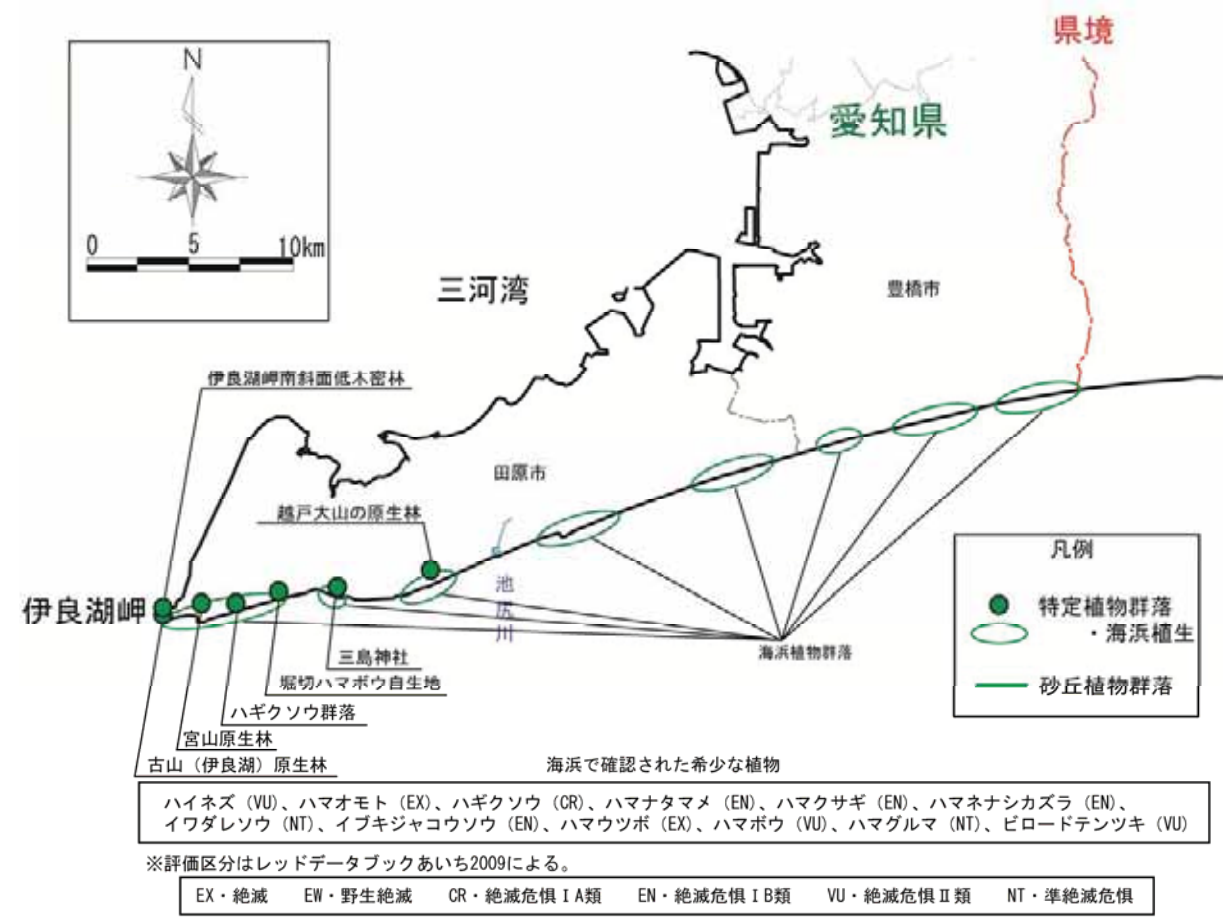


図 1.1.3 遠州灘沿岸の海岸植生概要図

出典：「第3回自然環境保全基礎調査 静岡県自然環境情報図」(環境庁, 1989年)
「平成6年度海浜動植物調査業務委託報告書」(静岡県自然保護課, 1995年)
沿岸市町アンケートより

変更記載内容 (案)



※ 静岡県のレッドデータブックでは、コギシギシ、イヌハギ、ヒメビシ、シバナ、リュウノヒゲモが静岡県カテゴリーでは絶滅危惧種ⅠB類、環境省カテゴリーでは絶滅危惧種Ⅱ類、カワツルモは静岡県カテゴリーでは絶滅危惧種Ⅱ類、環境省カテゴリーでは絶滅危惧種ⅠB類となっている。

出典：「第5回自然環境保全基礎調査・特定植物群落調査報告書」(環境庁, 2000年)

※行政区画は、「国土数値情報 行政区画データ (平成26年度)」による。

図 1.1.3 遠州灘沿岸の海岸植生概要図

④ 海岸の動物

遠州灘沿岸では、それぞれの環境に適した種が生息しているが、全国的にも有数のアカウミガメの上陸・産卵地であることが特徴である。アカウミガメは、野生動物の国際取引を規制するワシントン条約で最も規制の厳しい付属書Ⅰに記載され、わが国における種の保存法の国際希少野生動物種に指定されている。国のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類（VU：絶滅の危険が増大している種）に、愛知県のレッドデータブックでは絶滅危惧IB類（EN：近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種）となっている。延べ上陸個体数については年々減少傾向にあり、その原因として、砂浜の減少、海岸を走る自動車の灯りや観光客の花火などが指摘されている。なお、遠州灘のアカウミガメは、5月下旬から8月下旬までの約3ヶ月間に沿岸の各地の砂浜で上陸・産卵が確認されており、砂地に穴を掘って産卵、50～90日でふ化し、地中から這い出し海へと出ていく。

上陸・産卵場所について、愛知県域では豊橋市でほぼ全域、田原町で六連や南神戸、赤羽根町で砂浜幅が広い一色の磯から赤羽根漁港までの間、渥美町で和地と日出の岩礁帯に挟まれた一定の砂浜幅のある堀切が上陸・産卵地となっている。静岡県域では、ほとんど全ての海岸で、アカウミガメの上陸・産卵がみられる。なかでも、御前崎海岸のアカウミガメ及びその産卵地が国指定天然記念物に、浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地が浜松市指定天然記念物となっている。



その他の動物では、愛知県の伊良湖岬周辺は多くの鳥類の渡りの通過地点になっており、特に秋に見られるサンバなどタカの渡りは全国的にも有名である。伊良湖から堀切にかけての沿岸部は伊良湖鳥獣保護区（2,200ha：H9.11.1～H19.10.31）に、小塩津には小塩津鳥獣保護区（81ha：H11.11.1～H21.10.31）の指定を受けている箇所がある。渥美半島では、場所によってキツネ、タヌキなどが確認されており、昆虫や両生類については希少種の確認や生息記録があり、ヒメタイコウチやトウキョウサンショウウオなどの確認もされている。



サンバ

静岡県域の砂浜には、カモメ科に属する小型の夏鳥で種の保存法の国際希少野生動物種に指定されるとともに、環境省のレッドデータブックによると絶滅危惧Ⅱ類であるコアジサシが産卵に訪れる。遠州灘はコアジサシが自然の砂浜で営巣する、日本において数少ない海岸の一つとなっている。また、汀線付近にはスナガニやフジノハナガイ、クロマツ林内にはキツネなどの哺乳類などが生息している。御前崎海岸の岩礁には、様々な種類の貝やカニ、イソギンチャク、ウニ、海藻などが見られ、干潮時にできる潮だまりはこれら海の生物の絶好の観察場となる。遠州灘に注ぐ河川の河口部には、その場特有の環境と生物相が形成されている。また、沿岸のほとんどが鳥獣保護区に指定されている。



コアジサシの営巣

④ 海岸の動物

遠州灘沿岸では、それぞれの環境に適した種が生息しているが、特に、アカウミガメに関しては、全国的にも有数の上陸・産卵地であることが知られている。アカウミガメは、野生動物の国際取引を規制するワシントン条約で最も規制の厳しい付属書Ⅰに記載され、わが国における種の保存法の国際希少野生動物種に指定されており、御前崎海岸では国指定天然記念物、浜松海岸では市指定の天然記念物となっている。

国のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類（VU：絶滅の危険が増大している種）、静岡県では絶滅危惧IA類（CR：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種）、愛知県では絶滅危惧IB類（EN：近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種）とされており保護保全の意義は高い。

遠州灘のアカウミガメは、5月下旬から8月下旬までの約3ヶ月間に沿岸の各地の砂浜で上陸・産卵が確認されており、砂地に穴を掘って産卵、50～90日でふ化し、地中から這い出し海へと出ていく。

愛知県域では豊橋市のほぼ全域、田原市では六連や南神戸、赤羽根の砂浜幅が広い一色の磯から赤羽根漁港までの間、和地と日出の岩礁帯に挟まれた一定の砂浜幅のある堀切が上陸・産卵地となっており、上陸産卵は近年あまり顕著な変化はみられない。



アカウミガメのふ化

静岡県域では、ほとんどの海岸で、アカウミガメの上陸・産卵がみられる。なかでも、御前崎海岸のアカウミガメ及びその産卵地が国指定天然記念物に、浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地が浜松市指定天然記念物となっている。

その他の動物では、愛知県の伊良湖岬周辺は多くの鳥類の渡りの通過地点になっており、特に秋に見られるサンバなどタカの渡りは全国的にも有名である。伊良湖から堀切にかけての沿岸部は伊良湖鳥獣保護区（2,200ha：H19.11.1～H29.10.31）に、小塩津には小塩津鳥獣保護区（81ha：H11.11.1～H31.10.31）の指定を受けている箇所がある。渥美半島では、場所によってキツネ、タヌキなどが確認されており、昆虫や両生類については希少種の確認や生息記録があり、ヒメタイコウチやトウキョウサンショウウオなどの確認もされている。



サンバ

その他、遠州灘は、カモメ科に属する小型の夏鳥で種の保存法の国際希少野生動物種やレッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に指定されているコアジサシが、砂浜で営巣や産卵に訪れる数少ない海岸の一つとなっている。また、汀線付近にはスナガニやフジノハナガイ、クロマツ林内にはキツネなどの哺乳類などが生息している。御前崎海岸の岩礁には、様々な種類の貝やカニ、イソギンチャク、ウニ、海藻などが見られ、干潮時にできる潮だまりはこれら海の生物の絶好の観察場となる。遠州灘に注ぐ河川の河口部には、その場特有の環境と生物相が形成されている。また、沿岸のほとんどが鳥獣保護区に指定されている。



コアジサシの営巣



注：愛知県域のアカウミガメ上陸・産卵状況は、豊橋市、田原町、あかばね塾、渥美町海亀保護連絡会からの資料により作成したもの

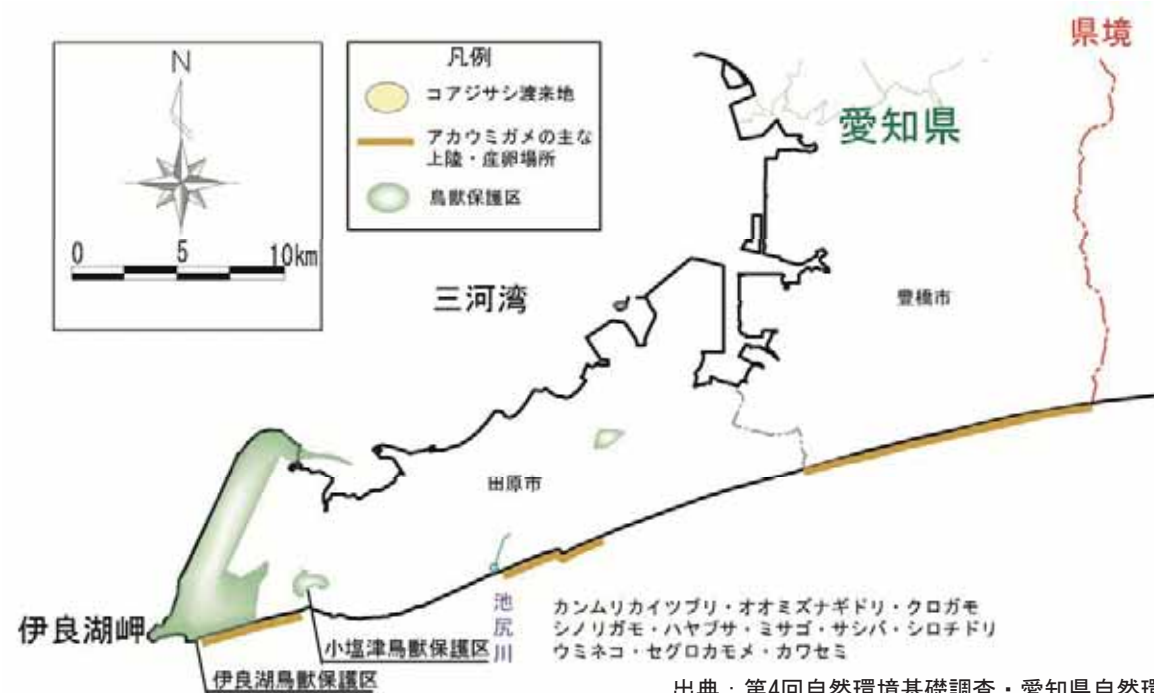
出典：第4回自然環境基礎調査・愛知県自然環境情報図（1995）、第3回自然環境基礎調査・鳥類（1989）、保全を要する自然環境要素分布調査報告書（1989.3）、平成13年度愛知県鳥獣保護区等位置図、愛知の野鳥（1995）

図 1.1.4 遠州灘沿岸の海岸動物概要図



出典：「静岡県鳥獣保護区等位置図」（静岡県自然保護課）沿岸市町アンケートより

変更記載内容（案）



出典：第4回自然環境基礎調査・愛知県自然環境情報図（1995）、第3回自然環境基礎調査・鳥類（1989）、保全を要する自然環境要素分布調査報告書（1989.3）、愛知県鳥獣保護区等位置図（平成26年11月1日現在）、愛知の野鳥（1995）、「静岡県鳥獣保護区等位置図」（静岡県自然保護課）沿岸市町アンケート

※行政区域は、「国土数値情報 行政区域データ（平成26年度）」による。

注：愛知県域のアカウミガメ上陸・産卵状況は、豊橋市、田原市、あかばね塾からの資料により作成したもの



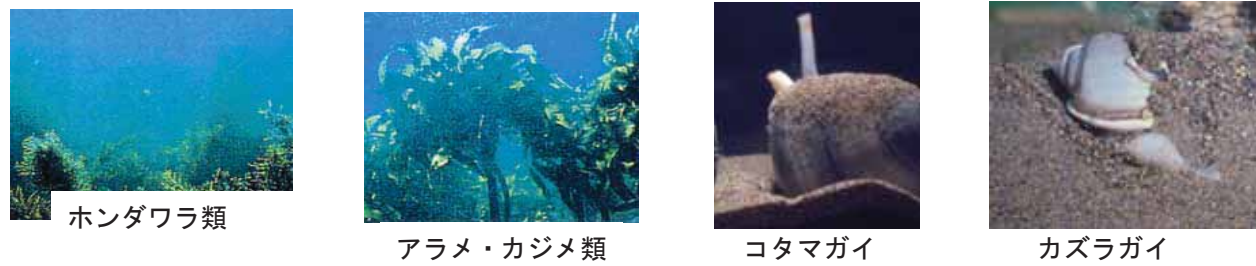
図 1.1.4 遠州灘沿岸の海岸動物概要図

⑤ 海域の生物

遠州灘沿岸には、黒潮の恵みを受けて様々な魚類等が生息しており、シラス（カタクチイワシ）、マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、マダイ、クロダイ、キス、コノシロ、スズキ、ボラ、カレイ類、イカ類、エビ類、カニ類などがあげられる。また、貝類では、遠州灘の特色である遠浅の砂浜で波の荒い海岸に生息する、コタマガイ、ダンベイキサゴ（ナガラミ）、カズラガイなどがみられる。



沿岸の藻場については、愛知県域では岩礁域が少ないため分布箇所は限られており、渥美町伊良湖岬先端、日出および渥美町東部から赤羽根町にかけての露岩域に分布し、サガラメやワカメ・ホンダワラ類が混生する。静岡県域では、御前崎海岸の岩礁の前面において、ホンダワラ類やアラメ・カジメ類などが分布し、魚類等の産卵・生息に役立っている。このように藻場は、様々な海域生物に変化のある生息の場を提供している。（出典：「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査」（環境庁，1992年））



⑤ 海域の生物

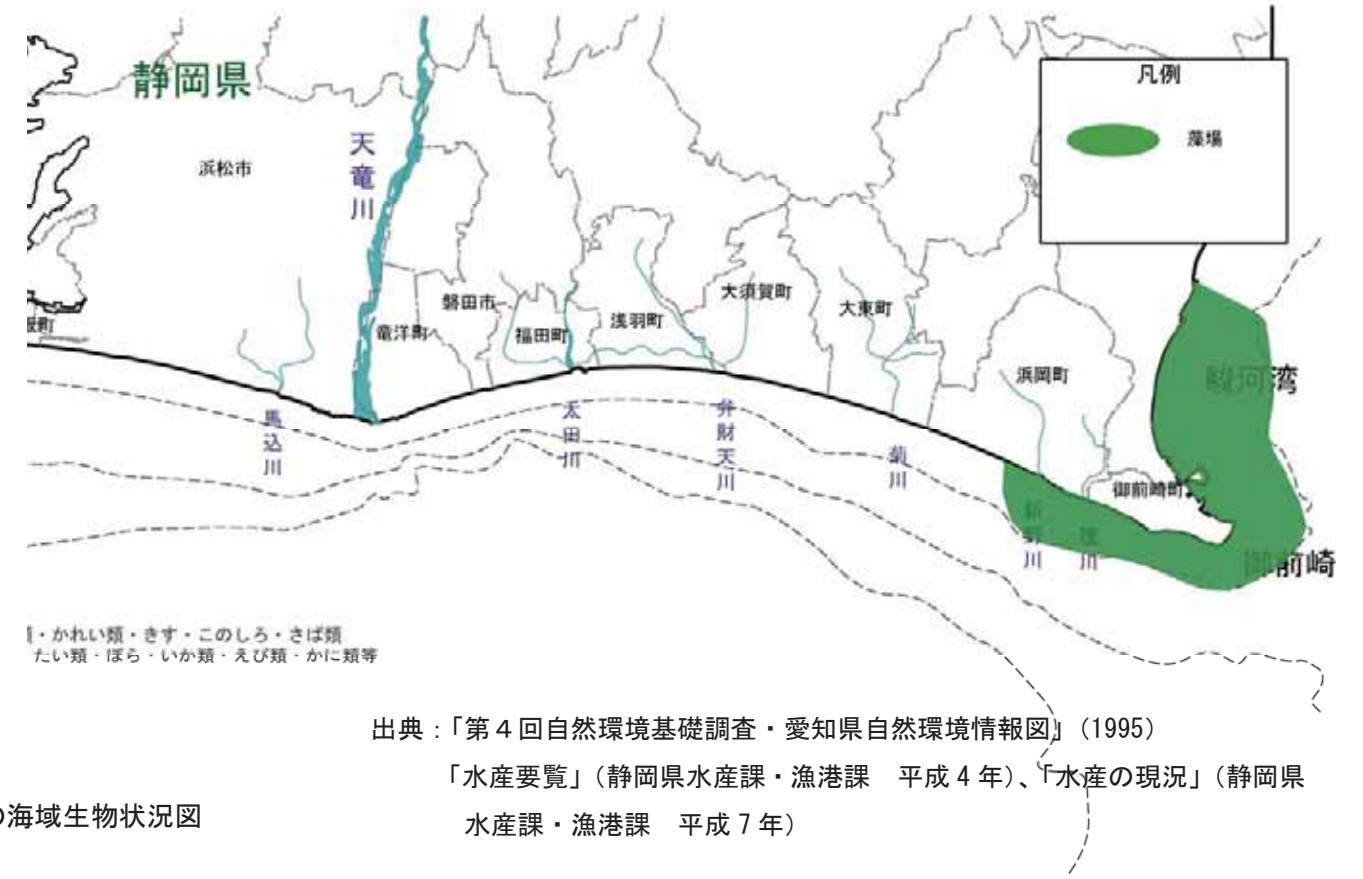
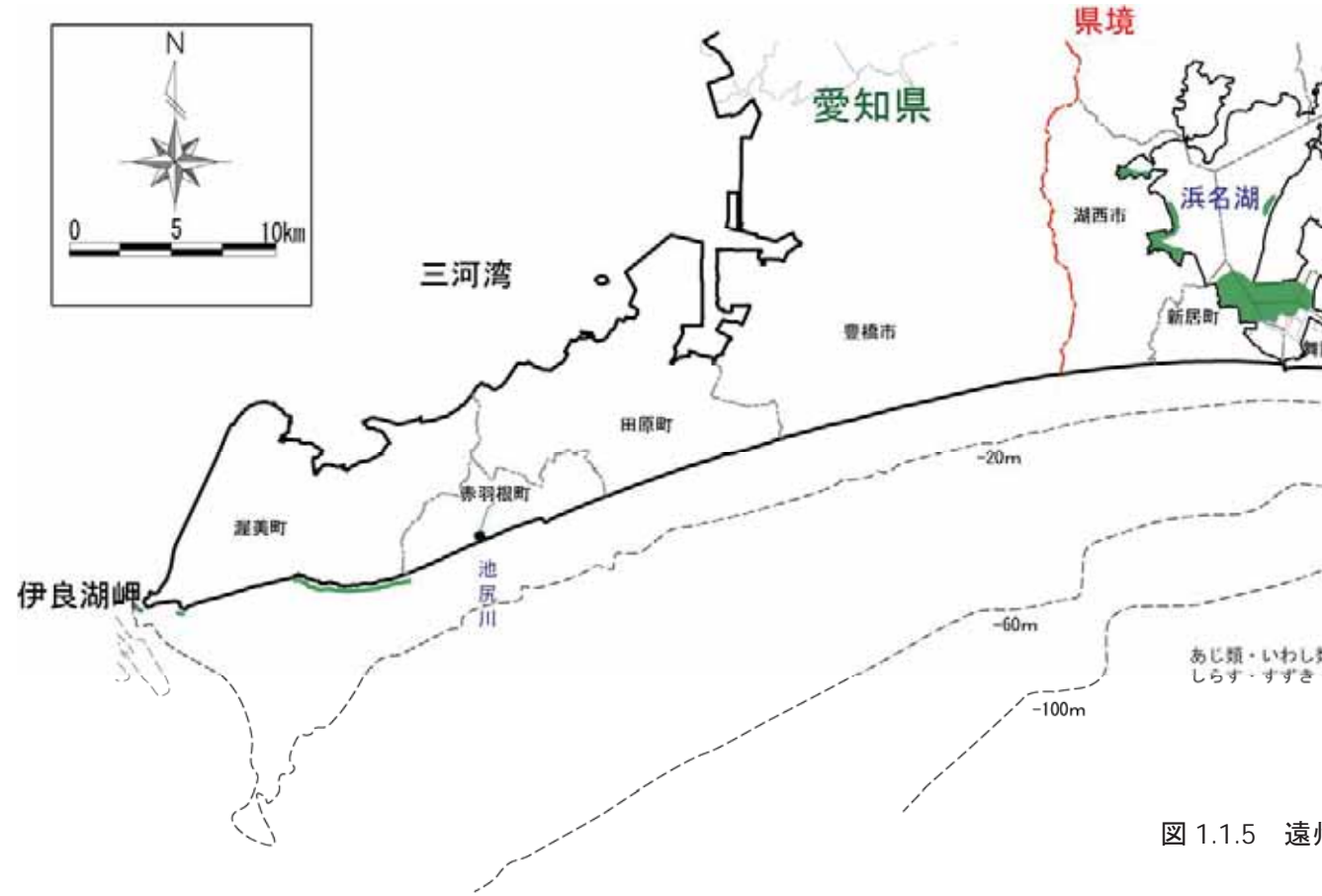
遠州灘沿岸には、黒潮の恵みを受けて様々な魚類等が生息しており、シラス（カタクチイワシ）、マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、マダイ、クロダイ、キス、コノシロ、スズキ、ボラ、カレイ類、イカ類、エビ類、カニ類などがあげられる。また、貝類では、遠州灘の特色である遠浅の砂浜で波の荒い海岸に生息する、コタマガイ、ダンベイキサゴ（ナガラミ）、カズラガイなどがみられる。



沿岸の藻場については、愛知県域では岩礁域が少ないため分布箇所は限られており、**田原市**伊良湖岬先端、日出および**和地**の露岩域に分布し、サガラメやワカメ・ホンダワラ類が混生する。静岡県域では、御前崎海岸の岩礁の前面において、ホンダワラ類やアラメ・カジメ類などが分布し、魚類等の産卵・生息に役立っている。このように藻場は、様々な海域生物に変化のある生息の場を提供している。（出典：「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査」（環境庁，1992年）、「第6回（H11～16），7回（H17～）自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査」（環境省））



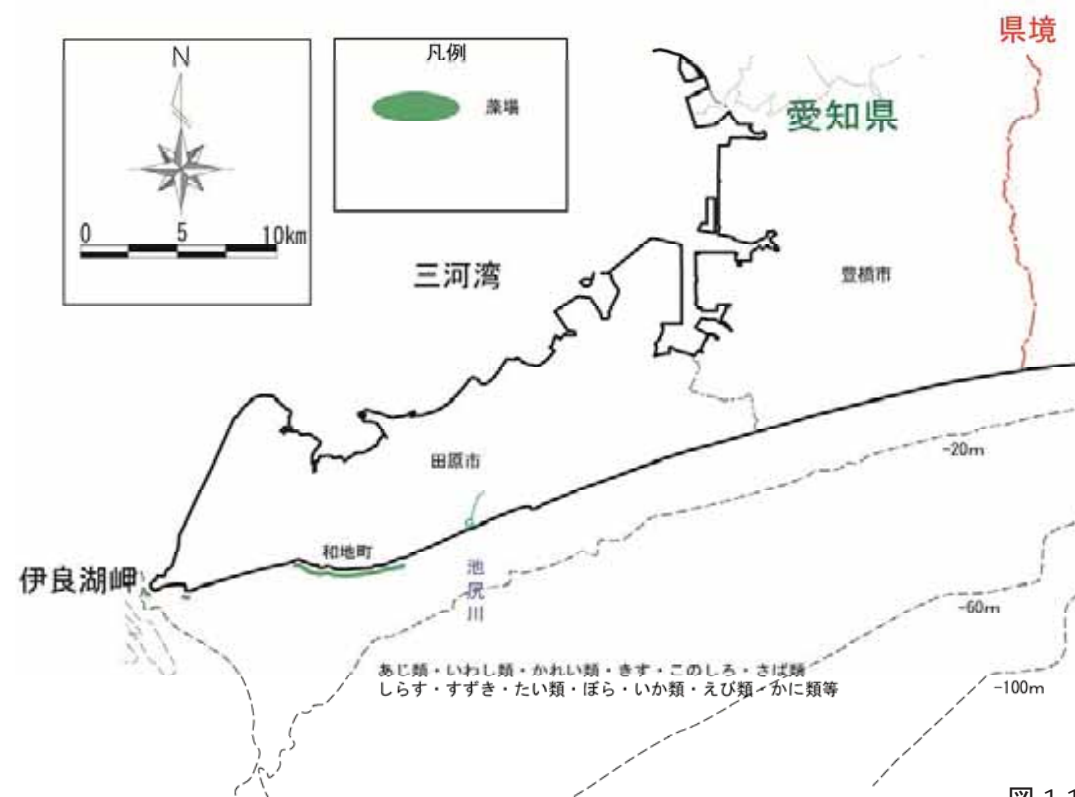
現行基本計画記載内容



出典：「第4回自然環境基礎調査・愛知県自然環境情報図」（1995）
 「水産要覧」（静岡県水産課・漁港課 平成4年）、「水産の現況」（静岡県水産課・漁港課 平成7年）

図 1.1.5 遠州灘沿岸の海域生物状況図

変更記載内容（案）



※行政区画は、「国土数値情報 行政区画データ（平成26年度）」による。

図 1.1.5 遠州灘沿岸の海域生物状況図

出典：「第4回自然環境基礎調査・自然環境情報図」（1995）
 「第6回（H11～16）、7回（H17～）自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査」（環境省）、
 「大陸棚海の基本図-海底地形図 6635」（海上保安庁）